

令和6年度 自己点検・評価書 (暫定版)

令和7年7月22日

佐賀大学

医学部・大学院医学系研究科

目次

I 現況及び特徴	1
II 目的	2
III 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）	
分析項目 I 教育活動の状況	
A. 地域・附属病院との連携による教育活動	4
B. 教育の質の保証・向上	5
C. リカレント教育の推進	6
分析項目 II 教育成果の状況	
A. 卒業（修了）時の学生からの意見聴取	7
B. 卒業（修了）生からの意見聴取	15
C. 就職先等からの意見聴取	19
IV 研究に関する状況と自己評価	
分析項目 I 研究活動の状況	
1. 研究の実施体制・推進体制	27
2. 発表論文数	28
3. 学会発表数	28
4. 特許出願・保有件数	28
5. 外部資金の獲得状況	29
6. 研究に対する支援	32
7. その他の取組み	34
分析項目 II 研究成果の状況	35
V 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価	
1. 教育の国際交流状況	36
2. 社会連携・貢献に関する状況	36
VIー I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価	
1. 医学部・医学系研究科の第4期中期目標・中期計画及び進捗状況	38
2. 施設の状況	41
3. その他部局の重要な取組	41
VIー II 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のための方策	43

I 現況及び特徴

佐賀大学医学部は、昭和 51 年 10 月 1 日に開学した旧佐賀医科大学を前身として、平成 15 年 10 月 1 日に旧佐賀大学と統合し、平成 16 年 4 月 1 日からの法人化により国立大学法人佐賀大学医学部（医学科、看護学科）となり、現在に至っている。大学院としては、昭和 59 年 4 月 12 日に医学研究科・博士課程を設置し、平成 9 年 4 月 1 日の修士課程看護学専攻の設置に伴い医学系研究科に改称、さらに、平成 15 年 4 月 1 日に修士課程医科学専攻を設置したことにより、医師・看護師に加えて、地域包括医療を担う様々な領域の専門職者を育成する高度専門教育課程が整備されている。平成 31 年 4 月 1 日から先進健康科学研究科を設置し、医学系研究科（修士課程）は廃止され、先進健康科学研究科に医科学コース及び総合看護科学コースを設置した。

医学部では、1 県 1 医科大学という国の方針のもとに建学した経緯から、地域包括医療の中核としての使命を担い、社会の要請に応える良き医療人の育成を第一の目的として、教育・研究・診療を一体とした活動を推進している。

教育の特徴として自己学習・自己評価をモットーとし、科学的論理的思考に基づいた問題解決型学習法を導入し、医療職者に求められる広い視野からの問題解決能力の涵養をめざしている。

研究面では生活習慣病をはじめ、重要課題として免疫、アレルギー、がんに対する分子レベルでの研究を行い、予防と治療法の確立に取り組んでいる。

地域包括医療の教育研究並びに地域貢献活動の拠点として地域医療科学教育研究センターを全国に先駆けて設置している。

附属病院では「患者・医療人に選ばれる病院を目指して」という病院理念を絶えず念頭に置き、病院の 3 つの目標である、地域医療への貢献、良き医療人の育成、高度医療技術の開発研究を果たすべく努力している。

Ⅱ 目的

医学部では、以下の理念、目的、目標を掲げ、また、本学で定める「佐賀大学 学士力」に則り教育活動を展開している。

これらの内容は、学校教育法第 83 条に規定された大学一般に求められる目的「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」並びに、本学のミッションの再定義（医学分野）「地域と共に未来に向けて発展し続ける」ことを掲げる佐賀大学の理念等に基づき、コミュニケーション能力や臨床技能を有し、社会の要請に応えうる「良き医療人」を育成し、医学の発展や地域包括医療の向上に寄与する。及びミッションの再定義（保健系分野）「佐賀大学の理念等に基づき、高い倫理感に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践力を持った看護職者を育成する。特に、自己学習支援システム、少人数教育体制、体験に基づいた学習を重視した実践的教育方法の導入や、附属病院看護部と連携した臨地実習の充実、医学科との教育連携等により、看護教育の質の向上に寄与する。」に適合している。

【使命】

医及び看護の実践とその科学的創造形成の過程を通じて医学及び看護学の知識技術並びに医師又は看護職者たるにふさわしい態度を習得し、かつ、これらを生涯にわたって創造発展させることのできる人材を養成することを目的とし、もって医学及び看護学の水準及び地域医療の向上に寄与する。

【基本理念】＜佐賀大学医学部規則 第 1 条の 2＞

医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展及び地域包括医療の向上に寄与する。

◆医学科

【教育目的】＜佐賀大学医学部規則 第 1 条の 3＞

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成する。

◆看護学科

【教育目的】＜佐賀大学医学部規則 第 1 条の 4＞

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成する。

【教育目標】

1. 看護職者にふさわしい豊かな感性を備え、人を尊重する態度を身につける。
2. 的確な看護実践ができるように看護の知識と技術を修得する。
3. 看護の多様な問題に対処できるように、自ら考え解決する習慣を身につける。
4. 社会に対する幅広い視野をもち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を養う。

医学系研究科では、以下の理念、目的、目標を掲げ、教育活動を行っている。

これらの内容は、学校教育法第 99 条に規定された大学院一般に求められる目的「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与する」に適合している。

【基本理念】＜佐賀大学大学院医学系研究科規則 第 1 条の 2＞

研究科は、医学・医療の専門分野において、社会の要請に応えうる研究者及び高度専門職者を育成し、学術研究を遂行することにより、医学・医療の発展と地域包括医療の向上に寄与する。

◆博士課程

【教育目的】

医学・医療の領域において、自立して独創的研究活動を遂行するために必要な高度な研究能力と、その基礎となる豊かな学識と優れた技術を有し、教育・研究・医療の各分野で指導的役割を担う人材を育成する。

【教育目標】

1. 高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学・医療の諸分野での指導的役割を果たす能力を身につける。
2. 幅広い専門的知識・技術を身につけ、研究及び医学・医療の諸分野での実践で発揮できる。
3. 自立して研究を行うために必要な実験デザインなどの研究手法や研究遂行能力、あるいは研究能力を備えた高度専門職者としての技量を身につける。
4. 幅広い視野を持ち、国内外の研究者あるいは専門職者と専門領域を通じた交流ができる。

Ⅲ 教育の水準の分析（教育活動及び教育成果の状況）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

A. 地域・附属病院との連携による教育活動

医学部学生の臨床教育の充実を期するとともに地域医療の向上に資することを目的とし、関連教育病院 1 施設と臨床医学教育実習の協力病院 47 施設と協定書を締結している。

関連教育病院に関する協定書の締結施設
地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館

臨床医学教育実習に関する協定書の締結施設	
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター	医療法人社団敬愛会佐賀記念病院
独立行政法人地域医療機能推進機構佐賀中部病院	佐賀市立富士大和温泉病院
医療法人社団高邦会高木病院	唐津市民病院きたはた
社会医療法人祐愛会織田病院	医療法人同愛会サンテ溝上病院
佐賀市立国民健康保険三瀬診療所	社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院
医療法人智仁会佐賀リハビリテーション病院	神埼市国民健康保険背振診療所
公益財団法人健和会大手町病院	医療法人大和正信会ふじおか病院
独立行政法人国立病院機構佐賀病院	坂本内科医院
医療法人徳洲会福岡徳洲会病院	陣内内科・小児科クリニック
日本赤十字社唐津赤十字病院	医療法人ひらまつ病院
医療法人弘佑会福田内科医院	独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
山口クリニック	医療法人あおぞら胃腸科
医療法人力武クリニック	医療法人慈孝会七山診療所
ながえ内科クリニック	医療法人純伸会矢ヶ部医院
ひさのう循環器・内科	伊万里有田共立病院
池田内科・消化器科	町立太良病院
医療法人中西内科	医療法人尽心会百武整形外科・スポーツクリニック
独立行政法人国立病院機構長崎医療センター	さかえまち整形外科
小城市民病院	医療法人けやき会くらたクリニック
さとう泌尿器科	医療法人天心堂志田病院
南里泌尿器科医院	医療法人社団如水会今村病院
社会医療法人財団池友会福岡和白病院	医療法人葡萄の木ぶどうの木クリニック
社会福祉法人恩賜財団済生会唐津病院	社会医療法人謙仁会山元記念病院
医療法人ロコメディカル江口病院	

B. 教育の質の保証・向上

下記に示すように、医学部FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会が教育ワークショップ及びFD講演会・講習会からなるFDを企画立案している。特に毎年開催される「医学・看護学ワークショップ」では、FDに関する意見を聴取し、その意見や教育委員会における教育改善の検討を基に、教職員・学生のニーズを反映したテーマで翌年度以降のFDを企画している。また、教育ワークショップに参加した教員へのアンケートを実施し、FD参加の効果や今後の教育改善への結び付きに関して全体の98.4%が「効果的」という回答を得ており、教育の質の向上や授業の改善等にFDの成果が認められている。

第31回佐賀大学医学部 医学・看護学教育ワークショップ

令和6年度医学・看護学教育ワークショップ（医学・看護学）

令和6年12月4日（水）13:00～16:00（対面およびオンラインでの開催）

テーマ：

「医学生のアンプロフェッショナルな行動にどう対応するか～基本的な理解と対応の具体～」

（参加教員64人）

講演：13:05～14:05

愛知医科大学医学部地域総合診療医学寄付講座 教授 宮田 靖志 氏

グループワーク：14:10～15:45

【参加者アンケートより記載代表例】

- ・事例について、ディスカッション内で様々な意見をきくことができ興味深かったです。
「アンプロフェッショナル」という言葉の定義はあいまいで、難しいことも多いのだなと思いました。
- ・大学教員として悩んでいた内容をきちんと言語化して説明いただき、また具体例を通じてWSができたことは頭の整理につながりました。色々な方の意見を聞いて、明日からの実習、学生対応に活かせる内容でした。
- ・講義やグループワークを通じて、具体的な学生への対応について考える機会になったと思います。
- ・グループディスカッションを通じて、他科のDr. の考え方を知る事で、自分の考えから視野が拡大したと思います。学生だから大目に見るのではなく、学生からアンプロについて適切に対応していく必要があると考えました。

【成果】【参加者アンケート：講演会・演習の内容は、今後に向けて役立つか。】

- ・極めて効果的 17（26.6%）
- ・かなり効果的 23（35.9%）
- ・効果的 23（35.9%）
- ・効果少ない効果なし 1（1.6%）

C. リカレント教育の推進

医学部では、以下のリカレント教育を実施している。

【助産師のための再就業支援事業】

本事業は、平成 23 年度に文部科学省の補助事業として開始され、令和 5 年度からは佐賀県の委託事業として継続的に実施されている。

佐賀県における助産師の不足および地域・施設間での偏在の是正を図るとともに、地域医療の質の向上と持続可能な医療体制の構築を目的とし、潜在助産師の復職支援と現職助産師のスキル向上を推進する教育プログラムを提供している。

【地域薬剤師のリカレント教育】

本事業は、令和 5 年度に佐賀県の委託事業として開始され、地域薬剤師のキャリア形成と専門性向上を支援する教育プログラムを提供している。

佐賀県には薬学部が存在せず、薬剤師の専門教育機会の不足や地域定着率の低さが課題となっている。これらの課題を解決するため、佐賀大学医学部附属病院が教育拠点となり、地域医療を担う薬剤師の育成と定着の推進に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ教育成果の状況

A. 卒業（修了）時の学生からの意見聴取

医学科6年生及び看護学科4年生の卒業直前に、授業科目評価に関するアンケートを実施している。

令和6年度 卒前アンケート			回答数	有効でない 1 %	何ともいえない 2 %	少しは有効 3 %	概ね有効 4 %	大いに有効 5 %	5段階評価	有効でない 1 %	何ともいえない 2 %	有効といえる 3+4+5 %
医学科												
授業科目評価												
3.0以下 4.0以上 80%以上												
授業科目名	開講年次	開講年度(令和)										
医療入門Ⅰ	1	1	98	0%	3%	6%	27%	64%	4.5	0%	3%	97%
英語	1	1	98	4%	6%	16%	28%	46%	4.1	4%	6%	90%
平均			98.0	2%	5%	11%	27%	55%	4.3	2%	5%	93%
情報基礎概論	1	1	98	0%	5%	12%	42%	41%	4.2	0%	5%	95%
情報基礎演習Ⅰ	1	1	98	0%	5%	13%	42%	40%	4.2	0%	5%	95%
平均			98.0	0%	5%	13%	42%	40%	4.2	0%	5%	95%
医療心理学	1	1	98	0%	3%	8%	36%	53%	4.4	0%	3%	97%
生命倫理学	1	1	98	0%	3%	5%	31%	61%	4.5	0%	3%	97%
生活医療福祉学	1	1	98	0%	3%	11%	34%	52%	4.3	0%	3%	97%
医療と生活支援技術	1	1	98	0%	3%	9%	36%	52%	4.4	0%	3%	97%
医療入門Ⅱ	1,2	1,2	98	0%	2%	4%	32%	62%	4.5	0%	2%	98%
医療統計学	1	1	98	0%	4%	11%	33%	52%	4.3	0%	4%	96%
物理学	1	1	98	6%	11%	20%	26%	37%	3.8	6%	11%	83%
化学	1	1	98	1%	6%	19%	36%	38%	4.0	1%	6%	93%
生物学	1	1	98	0%	1%	16%	33%	50%	4.3	0%	1%	99%
平均			98.0	1%	4%	12%	33%	51%	4.3	1%	4%	95%
分子細胞生物学Ⅰ	1	1	98	0%	0%	8%	32%	60%	4.5	0%	0%	100%
分子細胞生物学Ⅱ	1	1	98	0%	1%	9%	31%	59%	4.5	0%	1%	99%
分子細胞生物学Ⅲ	2	2	98	0%	1%	7%	30%	62%	4.5	0%	1%	99%
免疫学	2	2	98	0%	0%	11%	26%	63%	4.5	0%	0%	100%
人体発生学	2	2	98	1%	2%	13%	30%	54%	4.3	1%	2%	97%
組織学	2	2	98	1%	2%	10%	28%	59%	4.4	1%	2%	97%
神経解剖学概説	2	2	98	1%	0%	10%	26%	63%	4.5	1%	0%	99%
肉眼解剖学	2	2	98	0%	0%	0%	16%	84%	4.8	0%	0%	100%
生化学	2	2	98	0%	0%	5%	22%	72%	4.7	0%	0%	100%
動物性機能生理学	2	2	98	0%	1%	7%	32%	60%	4.5	0%	1%	99%
植物性機能生理学	2	2	98	0%	0%	5%	28%	67%	4.6	0%	0%	100%
薬理学	3	3	98	0%	0%	7%	34%	59%	4.5	0%	0%	100%
微生物学	2	2	98	0%	0%	8%	31%	61%	4.5	0%	0%	100%
病理学	3	3	98	0%	0%	4%	29%	67%	4.6	0%	0%	100%
遺伝医学	3	3	98	0%	0%	9%	31%	60%	4.5	0%	0%	100%
平均			98.0	0%	0%	8%	28%	64%	4.5	0%	0%	99%
地域医療	3・4	3・4	98	0%	2%	7%	22%	68%	4.6	0%	2%	98%
消化器	3	3	98	0%	0%	0%	22%	78%	4.8	0%	0%	100%
呼吸器	3	3	98	0%	0%	1%	22%	77%	4.8	0%	0%	100%
循環器	3	3	98	0%	0%	0%	23%	77%	4.8	0%	0%	100%
代謝・内分泌・腎・泌尿	3	3	98	0%	0%	0%	22%	78%	4.8	0%	0%	100%
血液・腫瘍・感染症	3	3	98	0%	0%	1%	22%	77%	4.8	0%	0%	100%
皮膚・膠原	3・4	3・4	98	0%	0%	0%	23%	77%	4.8	0%	0%	100%
運動・感覚器	4	4	98	0%	0%	1%	19%	80%	4.8	0%	0%	100%
精神・神経	4	4	98	0%	0%	0%	21%	79%	4.8	0%	0%	100%
小児・女性	4	4	98	0%	0%	0%	21%	79%	4.8	0%	0%	100%
救急・麻酔	4	4	98	0%	0%	0%	21%	79%	4.8	0%	0%	100%
社会医学・医療社会法	4	4	98	0%	1%	5%	22%	71%	4.6	0%	1%	99%
臨床入門	3・4	3・4	98	0%	0%	4%	21%	74%	4.7	0%	0%	100%
医学英語(EMP)	3・4	3・4	98	0%	1%	1%	29%	69%	4.7	0%	1%	99%
平均			98.0	0%	0%	1%	23%	76%	4.7	0%	0%	100%

令和6年度 卒前アンケート			回 答 数	有効でない 1 %	何ともいえない 2 %	少しは有効 3 %	概ね有効 4 %	大いに有効 5 %	5 段階評価	有効でない 1 %	何ともいえない 2 %	有効といえる 3+4+5 %
医学科												
臨床実習科目科目評価												
実習科目名	開講 年次	開講 年度 (令和)										
内科 (膠原病・リウマチ／脳神経)	5	5	96	0%	0%	2%	15%	83%	4.8	0%	0%	100%
内科 (血液／呼吸器)	5	5	96	0%	1%	4%	21%	74%	4.7	0%	1%	99%
内科 (循環器／腎臓)	5	5	96	0%	0%	1%	19%	80%	4.8	0%	0%	100%
内科 (消化器／肝・糖・内分泌)	5	5	96	0%	1%	1%	16%	82%	4.8	0%	1%	99%
内科 参加型	5・6	5・6	96	0%	1%	0%	10%	89%	4.9	0%	1%	99%
外科(脳神経)	5	5	96	0%	0%	1%	22%	77%	4.8	0%	0%	100%
外科(整形)	5	5	96	0%	0%	1%	17%	82%	4.8	0%	0%	100%
外科(泌尿器)	5	5	96	0%	0%	1%	14%	85%	4.8	0%	0%	100%
外科 4週間 (一般・消化器外科／胸部・心臓血管)	5・6	5・6	96	0%	0%	3%	8%	89%	4.9	0%	0%	100%
外科 2週間 (一般・消化器外科／胸部・心臓血管)	5・6	5・6	95	0%	0%	1%	14%	85%	4.8	0%	0%	100%
皮膚科	5	5	96	0%	0%	2%	25%	73%	4.7	0%	0%	100%
精神神経科	5・6	5・6	96	0%	0%	4%	19%	77%	4.7	0%	0%	100%
小児科	5・6	5・6	96	0%	0%	0%	14%	86%	4.9	0%	0%	100%
産科・婦人科	5・6	5・6	96	0%	0%	1%	13%	86%	4.9	0%	0%	100%
眼科	5	5	96	0%	0%	4%	21%	75%	4.7	0%	0%	100%
耳鼻咽喉科	5	5	96	0%	0%	0%	18%	82%	4.8	0%	0%	100%
放射線科・検査部	5	5	96	0%	0%	2%	20%	78%	4.8	0%	0%	100%
麻酔科・蘇生科・緩和・ペイン	5	5	96	0%	0%	2%	20%	78%	4.8	0%	0%	100%
救命救急センター (救急科)	5・6	5・6	96	0%	0%	1%	16%	83%	4.8	0%	0%	100%
総合診療部	5・6	5・6	96	0%	0%	2%	11%	86%	4.8	0%	0%	100%
選択 (形成・リハビリテーション・病理)	5	5	96	0%	0%	3%	17%	80%	4.8	0%	0%	100%
関連教育病院	5・6	5・6	96	0%	0%	0%	16%	84%	4.8	0%	0%	100%
地域医療	5・6	5・6	96	0%	0%	2%	11%	86%	4.8	0%	0%	100%
平均				0%	0%	2%	16%	82%	4.8	0%	0%	99.9%

医学科卒業直前アンケート 授業科目評価結果の年次推移

授業科目名 (H23～H28入学)	授業科目名 (H27入学～)	令和元年度卒業		令和2年度卒業		令和3年度卒業		令和4年度卒業		令和5年度卒業		令和6年度卒業	
		5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%
医療入門Ⅰ	医療入門Ⅰ	4.3	94	4.2	93	4.5	98	4.0	92%	4.4	98%	4.5	95%
英語	英語	4.0	95	3.9	91	4.0	94	3.7	92%	3.9	89%	4.1	95%
ドイツ語Ⅰ	ドイツ語Ⅰ	3.4	68	3.5	73	3.4	68	—	—	—	—	—	—
フランス語Ⅰ	フランス語Ⅰ	3.8	83	4.3	92	4.7	100	—	—	—	—	—	—
中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	4.0	88	4.0	90	3.8	84	—	—	—	—	—	—
朝鮮語Ⅰ	朝鮮語Ⅰ	4.1	91	4.3	95	4.3	100	—	—	—	—	—	—
情報基礎概論	情報基礎概論	3.8	90	3.9	89	4.1	93	3.7	84%	3.9	94%	4.2	97%
情報基礎演習Ⅰ	情報基礎演習Ⅰ	3.7	90	3.9	88	4.1	93	3.7	84%	3.9	95%	4.2	90%
平均		3.9	87	4.0	89	4.1	91	3.8	88%	4.0	94%	4.2	94%
医療人間学	生命倫理学	4.0	98	4.1	93	4.3	94	3.9	88%	4.2	96%	4.5	97%
医療心理学	医療心理学	3.8	98	4.0	92	4.2	92	3.8	85%	4.1	94%	4.4	97%
生活と支援技術	医療と生活支援技術	3.9	99	4.2	96	4.4	94	3.8	86%	4.1	96%	4.4	97%
生活医療福祉学	生活医療福祉学	3.8	99	4.1	95	4.4	95	3.8	86%	4.1	94%	4.3	97%
医療入門Ⅱ	医療入門Ⅱ	4.2	98	4.2	94	4.5	97	4.0	92%	4.4	97%	4.5	98%
医療統計学	医療統計学	3.5	92	4.1	94	4.4	97	3.9	89%	4.1	94%	4.3	96%
基礎生命科学	物理学	4.1	97	3.8	83	3.7	76	3.3	74%	3.2	68%	3.8	83%
	化学			3.9	88	3.8	84	3.6	81%	3.5	83%	4.0	93%
	生物学			4.0	92	4.1	95	3.7	83%	3.9	92%	4.3	99%
平均		4.0	99	4.0	92	4.2	92	3.8	85%	4.0	90%	4.3	95%
細胞生物学Ⅰ	分子細胞生物学Ⅰ	4.3	98	4.2	97	4.4	98	4.0	93%	4.2	98%	4.5	100%
細胞生物学Ⅱ	分子細胞生物学Ⅱ	4.3	98	4.2	97	4.4	98	4.0	93%	4.2	99%	4.5	99%
細胞生物学Ⅲ	分子細胞生物学Ⅲ	4.3	98	4.3	97	4.5	98	4.1	95%	4.3	99%	4.5	99%
感染学・免疫学	免疫学	4.5	100	4.4	97	4.6	100	4.2	94%	4.5	100%	4.5	100%
人体発生学	人体発生学	4.3	100	4.3	96	4.4	98	3.8	89%	4.2	98%	4.3	97%
組織学	組織学	4.5	100	4.4	97	4.5	99	4.1	92%	4.5	99%	4.4	97%
肉眼解剖学Ⅰ (神経解剖学概説)	神経解剖学概説	4.7	100	4.3	97	4.5	97	4.0	89%	4.4	100%	4.5	99%
肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学	4.7	100	4.5	98	4.8	100	4.4	94%	4.7	100%	4.8	100%
生化学	生化学	4.5	100	4.4	98	4.6	98	4.2	93%	4.5	100%	4.7	100%
生理学Ⅰ	動物性機能生理学	4.6	100	4.3	98	4.5	98	4.3	94%	4.5	100%	4.5	99%
生理学Ⅱ	植物性機能生理学	4.6	100	4.4	98	4.5	98	4.2	94%	4.4	99%	4.6	100%
薬理学	薬理学	4.2	96	4.2	97	4.5	96	4.1	93%	4.2	97%	4.5	100%
微生物学	微生物学	4.3	100	4.3	98	4.5	98	4.1	94%	4.3	100%	4.5	100%
病理学	病理学	4.6	100	4.4	98	4.5	98	4.3	94%	4.5	99%	4.6	100%
—	遺伝医学	—	—	4.3	97	4.5	99	4.2	93%	4.4	99%	4.5	100%
平均		4.5	99	4.3	97	4.5	98	4.1	93%	4.4	99%	4.5	99%
地域医療	地域医療	4.4	96	4.5	99	4.6	96	4.1	91%	4.6	99%	4.6	98%
消化器	消化器	4.7	100	4.7	100	4.7	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%
呼吸器	呼吸器	4.7	100	4.6	100	4.8	100	4.4	94%	4.7	100%	4.8	100%
循環器	循環器	4.7	100	4.7	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%
代謝・内分泌・腎・泌尿器	代謝・内分泌・腎・泌尿器	4.7	100	4.7	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%
血液・腫瘍・感染症	血液・腫瘍・感染症	4.7	100	4.7	100	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.8	100%
皮膚・膠原	皮膚・膠原	4.7	100	4.6	100	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.8	100%
運動・感覚器	運動・感覚器	4.7	100	4.7	100	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.8	100%
精神・神経	精神・神経	4.7	100	4.7	100	4.8	99	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%
小児・女性	小児・女性	4.8	100	4.6	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%
救急・麻酔	救急・麻酔	4.7	100	4.6	100	4.8	100	4.5	94%	4.8	100%	4.8	100%
社会医学・医療社会法制	社会医学・医療社会法制	4.6	100	4.6	99	4.7	100	4.5	94%	4.7	100%	4.6	99%
臨床入門	臨床入門	4.6	98	4.6	100	4.7	98	4.3	94%	4.7	100%	4.7	100%
医学英語	医学英語	4.5	98	4.5	99	4.4	96	4.2	92%	4.4	98%	4.7	99%
平均		4.7	99	4.6	100	4.7	99	4.4	94%	4.7	100%	4.7	100%

医学科卒業直前アンケート 授業科目評価結果の年次推移

実習科目名 (～H26入学)	平成27年度卒業		平成28年度卒業		平成29年度卒業		平成30年度卒業		令和元年度卒業	
	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%
内科(膠原病・リウマチ／神経)	4.6	99	4.7	100	4.7	100	4.6	99	4.7	100
内科(血液／呼吸器)	4.7	99	4.6	100	4.6	99	4.6	97	4.6	99
内科(循環器／腎臓)	4.7	100	4.7	99	4.6	100	4.6	99	4.7	100
内科(消化器／肝・糖・内分泌)	4.6	98	4.6	100	4.6	100	4.6	98	4.6	99
外科(一般・消化器)	4.5	97	4.6	98	4.6	100	4.6	99	4.7	99
皮膚科	4.6	99	4.5	98	4.7	100	4.6	97	4.7	100
外科(胸部)	4.7	99	4.7	100	4.6	100	4.6	99	4.7	99
外科(整形)	4.6	98	4.6	99	4.5	99	4.6	99	4.7	100
外科(脳・神経)	4.6	98	4.7	99	4.7	100	4.5	97	4.6	100
外科(泌尿器)	4.7	100	4.8	100	4.5	99	4.6	99	4.8	100
麻酔・蘇生	4.7	99	4.7	100	4.5	98	4.6	97	4.7	99
眼	4.6	98	4.6	100	4.7	100	4.6	99	4.6	100
耳鼻咽喉	4.6	98	4.7	100	4.5	97	4.6	99	4.7	100
小児	4.7	99	4.7	100	4.4	100	4.7	99	4.8	100
産・婦人	4.6	99	4.6	98	4.7	100	4.6	98	4.7	100
精神・神経	4.6	99	4.5	99	4.7	99	4.6	99	4.6	100
放射線	4.6	99	4.6	100	4.7	100	4.5	96	4.7	100
検査部	4.4	95	4.4	98	4.6	100	4.4	93	4.5	98
病院病理部	4.6	98	4.6	100	4.7	100	4.5	96	4.6	100
薬剤部	4.4	97	4.4	98	4.5	99	4.4	92	4.5	99
総合診療部	4.7	99	4.7	100	4.5	98	4.7	98	4.8	100
救命救急センター	4.7	99	4.6	99	4.4	97	4.6	98	4.8	100
平均	4.6	98.5	4.6	99.3	4.6	99.3	4.6	97.6	4.7	99.6

医学科卒業直前アンケート 授業科目評価結果の年次推移

実習科目名 (H27入学～)	令和2年度卒業		令和3年度卒業		令和4年度卒業		令和5年度卒業		令和6年度卒業	
	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%	5段階平均	有効%
内科(膠原病・リウマチ／神経)	4.7	100	4.7	98	4.8	99%	4.8	100%	4.8	100%
内科(血液／呼吸器)	4.5	96	4.6	97	4.7	98%	4.6	100%	4.7	99%
内科(循環器／腎臓)	4.7	100	4.7	96	4.8	99%	4.8	100%	4.8	100%
内科(消化器／肝・糖・内分泌)	4.6	100	4.7	96	4.8	99%	4.7	100%	4.8	99%
内科 参加型	4.6	98	4.8	99	4.8	99%	4.7	100%	4.9	99%
外科(脳・神経)	4.5	96	4.5	93	4.6	98%	4.6	99%	4.8	100%
外科(整形)	4.6	99	4.7	99	4.7	99%	4.7	100%	4.8	100%
外科(泌尿器)	4.6	99	4.7	98	4.7	98%	4.7	100%	4.8	100%
外科 4週間	4.6	100	4.7	99	4.7	97%	4.7	99%	4.9	100%
外科 2週間	4.6	100	4.7	98	4.7	97%	4.7	99%	4.8	100%
皮膚科	4.5	96	4.7	98	4.6	98%	4.4	97%	4.7	100%
精神神経科	4.6	100	4.8	99	4.6	97%	4.5	97%	4.7	100%
小児科	4.6	99	4.7	99	4.7	97%	4.6	99%	4.9	100%
産科・婦人科	4.6	100	4.8	99	4.6	98%	4.7	99%	4.9	100%
眼科	4.5	98	4.7	100	4.6	97%	4.5	97%	4.7	100%
耳鼻咽喉科	4.6	99	4.7	99	5.1	96%	4.6	98%	4.8	100%
放射線科・検査部	4.5	98	4.7	100	4.6	97%	4.4	97%	4.8	100%
麻酔科・蘇生科・緩和・ペイン	4.5	99	4.7	98	4.7	98%	4.6	98%	4.8	100%
救急救命センター(救急科)	4.7	100	4.8	99	4.7	97%	4.7	99%	4.8	100%
総合診療部	4.7	100	4.8	98	4.7	97%	4.7	99%	4.8	100%
選択(形成・リハ・病理)	4.6	99	4.7	99	5.1	96%	4.6	98%	4.8	100%
関連教育病院	4.7	100	4.8	99	4.7	98%	4.7	98%	4.8	100%
地域医療	4.6	99	4.8	99	4.6	97%	4.7	99%	4.8	100%
平均	4.6	98.9	4.7	98.2	4.7	99%	4.6	99%	4.8	100%

令和6年度 卒前アンケート (2024年度)		回 答 数	有効でない	何ともいえない	少しは有効	概ね有効	大いに有効	5 段階評価 (平均)	有効でない	何ともいえない	有効といえる
看護学科 授業科目評価	4.0以上 90%以上										
	3.0以下										
	授業科目名										
基礎看護学実習Ⅰ	1	61	0%	0%	5%	20%	75%	4.7	0%	0%	100%
基礎看護学実習Ⅱ	2	61	0%	0%	3%	20%	77%	4.7	0%	0%	100%
成人看護学実習	3	61	0%	0%	2%	13%	85%	4.8	0%	0%	100%
老年看護学実習	3	61	0%	0%	0%	18%	82%	4.8	0%	0%	100%
小児看護学実習	3	61	0%	0%	2%	21%	77%	4.8	0%	0%	100%
母性看護学実習	3	61	0%	3%	7%	15%	75%	4.6	0%	3%	97%
精神看護学実習	3	61	0%	0%	2%	16%	82%	4.8	0%	0%	100%
在宅看護論実習	3	61	0%	0%	3%	15%	82%	4.8	0%	0%	100%
統合実習	4	61	0%	0%	0%	16%	84%	4.8	0%	0%	100%
カンセリングとメンタルヘルス(選)	3	58	0%	2%	16%	43%	40%	4.2	0%	2%	98%
保健医療福祉行政論(選)	3	59	0%	0%	14%	44%	42%	4.3	0%	0%	100%
公衆衛生看護学概論	1	61	0%	0%	10%	43%	48%	4.4	0%	0%	100%
公衆衛生看護活動展開論(選)	2	57	0%	0%	11%	44%	46%	4.4	0%	0%	100%
健康教育論	2	59	0%	2%	12%	46%	41%	4.3	0%	2%	98%
保健統計学Ⅰ	2	57	0%	16%	21%	32%	32%	3.8	0%	16%	84%
保健統計学Ⅱ(選)	4	30	0%	0%	20%	40%	40%	4.2	0%	0%	100%
災害看護論・チーム医療(選)	4	55	0%	0%	7%	40%	53%	4.5	0%	0%	100%
国際保健看護論(選)	4	48	0%	4%	13%	42%	42%	4.2	0%	4%	96%
疫学Ⅰ	2	59	0%	3%	19%	41%	37%	4.1	0%	3%	97%
疫学Ⅱ(選)	3	32	0%	3%	13%	38%	47%	4.3	0%	3%	97%
個人と家族の健康支援論(選)	2	58	0%	2%	12%	50%	36%	4.2	0%	2%	98%
集団と地域の健康支援論(選)	3	32	0%	0%	6%	34%	59%	4.5	0%	0%	100%
地域ケアシステム論(選)	3	29	0%	0%	7%	34%	59%	4.5	0%	0%	100%
公衆衛生看護管理論(選)	3	27	0%	4%	7%	22%	63%	6.0	0%	4%	93%
産業看護活動論(選)	3	26	0%	0%	8%	35%	58%	4.5	0%	0%	100%
公衆衛生看護学実習Ⅰ(選)	3	26	0%	0%	0%	19%	81%	4.8	0%	0%	100%
公衆衛生看護学実習Ⅱ(選)	4	26	0%	0%	0%	27%	73%	4.7	0%	0%	100%
地域母子保健(選)	3	34	0%	3%	21%	38%	38%	4.1	0%	3%	97%
新生児看護(選)	3	33	0%	0%	21%	33%	45%	4.2	0%	0%	100%
助産学概論Ⅰ(選)	2	19	0%	0%	11%	26%	63%	4.5	0%	0%	100%
助産学概論Ⅱ(選)	3	9	0%	0%	11%	22%	67%	4.6	0%	0%	100%
周産期学Ⅱ(選)	2	18	0%	0%	11%	28%	61%	4.5	0%	0%	100%
助産診断・技術学(選)	3	3	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産技術演習Ⅰ(選)	3	3	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産技術演習Ⅱ(選)	3	3	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産管理Ⅰ(選)	3	2	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産管理Ⅱ(選)	4	2	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%
助産学実習(選)	4	2	0%	0%	0%	0%	100%	5.0	0%	0%	100%

看護学科卒前アンケート 授業科目評価結果の推移

4.0以上, 90%以上

3.0以下

授業科目名	R2年度卒業		R3年度卒業		R4年度卒業		R5年度卒業		R6年度卒業	
	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%
大学入門科目Ⅰ(看護学入門)	4.1	95%	4.3	95%	4.3	98%	4.3	100%	4.0	98%
英語A	3.1	72%	3.6	85%	3.3	76%	3.4	79%	2.8	57%
英語B	3.0	72%	3.6	85%	3.4	78%	3.2	78%	2.5	42%
英語C	3.0	70%	3.5	84%	3.6	87%	3.3	81%	2.8	56%
英語D	3.0	70%	3.5	85%	3.5	78%	3.3	79%	2.5	42%
情報基礎概論	3.3	87%	3.7	93%	3.9	93%	4.3	100%	3.4	79%
平均	3.3	77.7%	3.7	87.9%	3.7	84.9%	3.6	86.2%	3.0	62.3%
人体の構造と機能(解剖学・生理学)	4.8	100%	4.8	98%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
人体の構造と機能(生化学)	4.4	98%	4.6	98%	4.5	100%	4.7	100%	4.3	100%
微生物学・寄生虫学	4.2	98%	4.5	98%	4.2	98%	4.6	100%	4.2	98%
栄養学	4.0	95%	4.3	96%	4.3	100%	4.4	100%	4.0	98%
病理学	4.4	100%	4.4	98%	4.5	100%	4.5	100%	4.2	97%
臨床薬理学	4.5	100%	4.5	100%	4.4	100%	4.7	100%	4.5	98%
病態・疾病論(Ⅰ～Ⅵ)	4.7	100%	4.6	98%	4.6	100%	4.6	100%	4.5	98%
病態・疾病論(Ⅶ～Ⅻ)	4.7	100%	4.6	98%	4.6	100%	4.6	100%	4.5	98%
リハビリテーション概論	4.4	100%	4.3	100%	4.4	100%	4.4	100%	4.1	98%
ヒトの遺伝の基礎と遺伝相談(選)	4.2	89%	4.2	97%	4.2	95%	4.3	95%	3.7	92%
看護倫理	4.5	100%	4.5	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.5	100%
看護英語(選)	3.8	83%	4.4	94%	4.3	96%				
キャリア・デザイン	4.3	98%	4.5	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.1	98%
看護研究入門	4.1	95%	4.2	98%	4.4	98%	4.5	100%	4.0	95%
平均	4.4	96.9%	4.5	98.1%	4.4	99.1%	4.6	99.6%	4.3	97.9%
コミュニケーション論	4.2	100%	4.4	98%	4.4	98%	4.3	100%	4.0	93%
クリティカルシンキング論	4.4	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.8	100%	4.6	100%
看護過程論	4.7	100%	4.6	100%	4.6	100%	4.8	100%	4.7	100%
基礎看護技術Ⅰ	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%
基礎看護技術Ⅱ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.9	100%
基礎看護技術Ⅲ	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.9	100%
看護制度・看護管理	4.2	100%	4.4	98%	4.5	100%	4.6	100%	4.6	100%
フィジカルアセスメント(選)	4.5	97%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
平均	4.6	99.3%	4.6	99.6%	4.7	99.8%	4.8	100.0%	4.7	99.2%
成人看護学概論	4.7	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.6	100%
老年看護学概論	4.7	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.7	100%
成人看護援助論Ⅰ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
成人看護援助論Ⅱ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.7	100%
成人看護援助論Ⅲ	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.7	100%
成人・老年看護学演習	4.9	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.7	100%
老年看護援助論	4.8	100%	4.6	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
長寿と健康(選)	4.4	96%	4.5	97%	4.7	100%	4.4	95%	4.5	100%
小児看護学概論	4.4	100%	4.4	93%	4.5	98%	4.6	100%	4.5	100%
小児発達援助論	4.4	100%	4.4	93%	4.5	98%	4.6	100%	4.6	100%
小児看護援助論	4.4	100%	4.3	93%	4.4	98%	4.6	100%	4.5	100%
小児看護技術演習	4.4	100%	4.4	93%	4.5	98%	4.6	100%	4.6	100%
小児看護臨床実践論(選)	4.2	89%	4.4	95%	4.5	100%	4.5	95%	4.5	100%
母と子の生活(選)	4.1	96%	4.1	96%	4.5	100%	4.3	95%	4.1	97%
母性看護学概論	4.4	100%	4.4	95%	4.4	100%	4.6	100%	4.4	100%
周産期学Ⅰ	4.4	100%	4.4	98%	4.4	98%	4.6	100%	4.5	100%
母性看護学援助論Ⅰ	4.5	100%	4.5	100%	4.4	98%	4.6	100%	4.4	100%
母性看護学援助論Ⅱ	4.6	100%	4.5	98%	4.5	100%	4.6	100%	4.5	100%
精神看護学概論	4.5	100%	4.5	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.5	100%
精神看護学各論Ⅰ	4.6	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.6	100%
精神看護学各論Ⅱ	4.7	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.6	100%
平均	4.6	99.1%	4.5	97.7%	4.6	99.5%	4.7	99.3%	4.6	99.9%

未開講

授業科目名	R2年度卒業		R3年度卒業		R4年度卒業		R5年度卒業		R6年度卒業	
	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%	5段階Av	有効%
在宅看護概論	4.6	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.4	100%
在宅看護援助論	4.6	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.5	100%
在宅療養者のヘルスアセスメント	4.6	100%	4.6	100%	4.7	100%	4.7	100%	4.4	100%
生活行動支援論(選)	4.2	94%								
先端医療論(選)	4.1	88%	4.4	94%						
地域医療支援論	4.3	97%	4.5	98%	4.7	100%	4.6	100%	4.3	100%
医療安全論(選)	4.4	96%	4.5	97%	4.7	100%	4.6	98%	4.4	98%
重症・救急看護学(選)	4.5	95%	4.7	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.7	100%
家族看護学(選)	4.4	100%	4.5	98%	4.5	100%	4.7	100%	4.2	100%
卒業研究	4.2	98%	4.3	95%	4.5	98%	4.7	100%	4.2	93%
平均	4.4	96.8%	4.5	97.9%	4.7	99.8%	4.7	99.7%	4.4	98.9%
基礎看護学実習Ⅰ	4.6	100%	4.6	100%	4.8	100%	4.7	100%	4.7	100%
基礎看護学実習Ⅱ	4.6	98%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%	4.7	100%
成人看護学実習	4.9	100%	4.9	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%
老年看護学実習	4.9	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%
小児看護学実習	4.9	100%	4.6	95%	4.7	100%	4.8	100%	4.8	100%
母性看護学実習	4.8	100%	4.7	100%	4.5	96%	4.8	100%	4.6	97%
精神看護学実習	4.9	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%
在宅看護論実習	4.9	100%	4.7	98%	4.8	100%	4.8	100%	4.8	100%
統合実習	4.8	100%	4.8	100%	4.9	100%	4.8	100%	4.8	100%
平均	4.8	99.7%	4.7	99.2%	4.8	99.6%	4.8	100.0%	4.8	99.6%
カウンセリングとメンタルヘルス(選)	4.1	98%	4.3	98%	4.6	100%	4.5	100%	4.2	98%
保健医療福祉行政論(選)	4.3	98%	4.3	98%	4.6	100%	4.4	100%	4.3	100%
公衆衛生看護学概論	4.3	95%	4.3	100%	4.6	100%	4.6	100%	4.4	100%
公衆衛生看護活動展開論(選)	4.4	97%	4.3	98%	4.5	98%	4.6	100%	4.4	100%
健康教育論	4.3	98%	4.3	96%	4.5	100%	4.5	100%	4.3	98%
保健統計学Ⅰ	4.1	97%	4.2	96%	4.3	96%	4.2	96%	3.8	84%
保健統計学Ⅱ(選)	4.0	96%	4.2	97%	4.3	95%	4.3	95%	4.2	100%
災害看護論・チーム医療(選)	4.2	98%	4.5	100%	4.7	100%	4.8	100%	4.5	100%
国際保健看護論(選)	4.2	100%	4.6	100%	4.6	100%	4.6	94%	4.2	96%
疫学Ⅰ	4.2	100%	4.4	100%	4.5	98%	4.5	98%	4.1	97%
疫学Ⅱ(選)	4.3	100%	4.3	100%	4.5	98%	4.5	98%	4.3	97%
個人と家族の健康支援論(選)	4.1	98%	4.2	100%	4.5	96%	4.5	100%	4.2	98%
集団と地域の健康支援論(選)	4.5	100%	4.3	97%	4.5	98%	4.7	100%	4.5	100%
地域ケアシステム論(選)	4.7	100%	4.3	97%	4.5	97%	4.7	100%	4.5	100%
公衆衛生看護管理論(選)	4.6	100%	4.2	95%	4.5	97%	4.8	100%	6.0	93%
産業看護活動論(選)	4.4	100%	4.3	100%	4.5	100%	4.8	100%	4.5	100%
公衆衛生看護学実習Ⅰ(選)	4.9	100%	4.7	100%	4.6	97%	5.0	100%	4.8	100%
公衆衛生看護学実習Ⅱ(選)	4.9	100%	4.5	100%	4.6	97%	5.0	100%	4.7	100%
平均	4.4	98.5%	4.3	98.6%	4.5	98.2%	4.6	98.9%	4.4	97.8%
地域母子保健(選)	4.2	90%	4.3	100%	4.5	100%	4.5	97%	4.1	97%
新生児看護(選)	4.3	95%	4.4	96%	4.4	97%	4.4	97%	4.2	100%
助産学概論Ⅰ(選)	4.2	94%	4.4	96%	4.3	96%	4.7	96%	4.5	100%
助産学概論Ⅱ(選)	4.3	92%	4.6	100%	4.4	95%	4.7	94%	4.6	100%
周産期学Ⅱ(選)	4.1	93%	4.6	100%	4.3	95%	4.7	95%	4.5	100%
助産診断・技術学(選)	4.5	100%	4.1	88%	4.6	100%	4.7	90%	5.0	100%
助産技術演習Ⅰ(選)	4.5	100%	4.4	100%	4.6	100%	4.7	90%	5.0	100%
助産技術演習Ⅱ(選)	4.5	100%	4.4	100%	4.6	100%	4.7	90%	5.0	100%
助産管理Ⅰ(選)	4.0	100%	4.6	100%	4.6	100%	4.6	91%	5.0	100%
助産管理Ⅱ(選)	4.0	100%	4.6	100%	4.6	100%	4.4	80%	5.0	100%
助産学実習(選)	5.0	100%	4.7	100%	4.2	92%	4.4	80%	5.0	100%
平均	4.3	96.7%	4.5	98.2%	4.5	97.7%	4.6	91.0%	4.7	99.7%

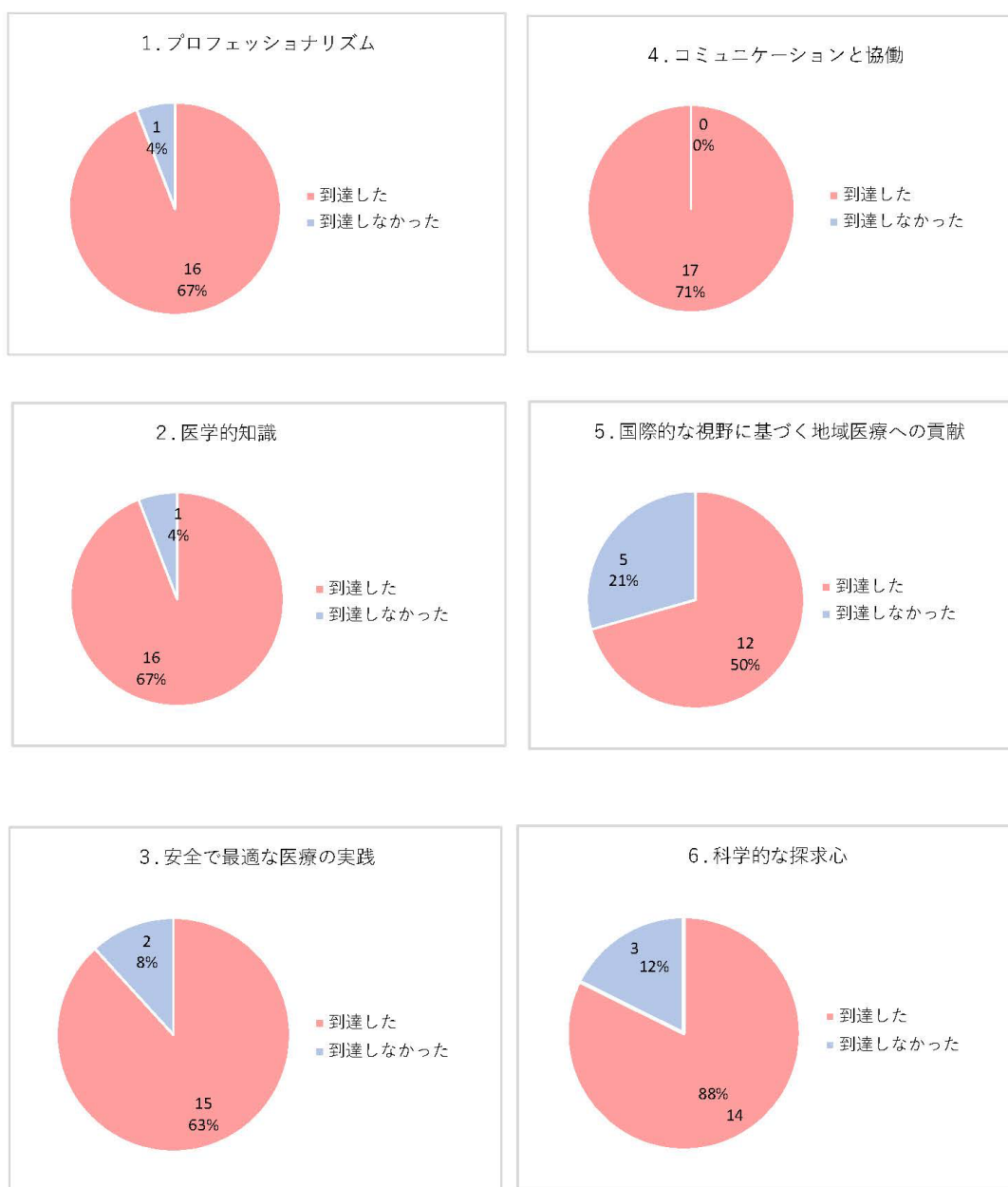
未開講
未開講

B. 卒業（修了）生からの意見聴取

医学科及び看護学科を卒業して2年経過した者に対して、アンケートを実施している。

令和7年3月実施（令和5年3月卒業）

「医学科の卒業時学修成果の内容」（卒業時に備えた能力）



【コメント】

1. プロフェッショナルリズム（コメントなし）

2. 医学的知識
（コメントなし）

3. 安全で最適な医療の実践
（コメントなし）

4. コミュニケーションと協働
（コメントなし）

5. 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
（コメントなし）

6. 科学的な探求心
研究面はあまり学べなかった。

その他
（コメントなし）

令和7年3月実施（令和5年3月卒業）

「看護学科教育目標・卒業時学習成果」

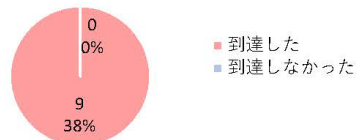
【教育目標】

1. 豊かな感性を備え、人を尊重する態度



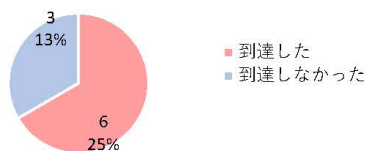
【卒業時アウトカム】

1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力



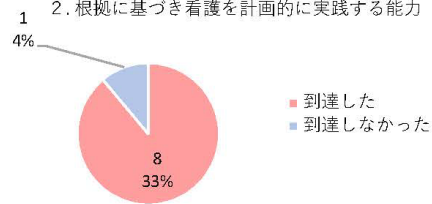
【教育目標】

2. 看護知識と技術の修得



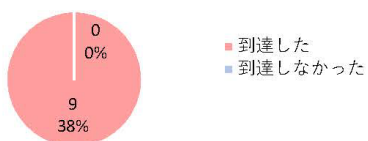
【卒業時アウトカム】

2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力



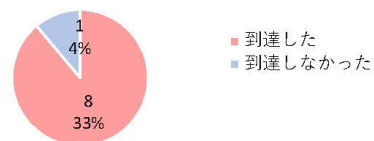
【教育目標】

3. 自ら考え解決する習慣



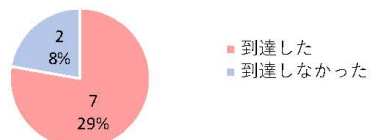
【卒業時アウトカム】

3. 特定の健康課題に対応する実践能力



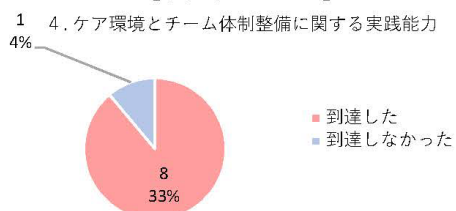
【教育目標】

4. 保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力



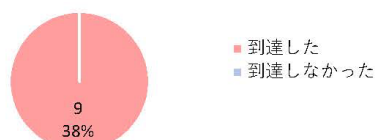
【卒業時アウトカム】

4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力



【卒業時アウトカム】

5. 専門職者として研鑽し続ける基本能力



<コメント>

【教育目標】

1. 豊かな感性を備え、人を尊重する態度（コメントなし）
2. 看護知識と技術の修得
 - ・臨床と、学習での知識技術では差が大きすぎたと現場に実際出て感じた
 - ・清拭や陰部洗浄等の清潔ケアや車椅子移乗等に関する看護技術の実習があるとよかった。
3. 自ら考え解決する習慣（コメントなし）
4. 保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力
 - ・患者家族が医療を通して、地域で生活していく場面をなかなか目の当たりにする機会がなかった

【卒業時アウトカム】

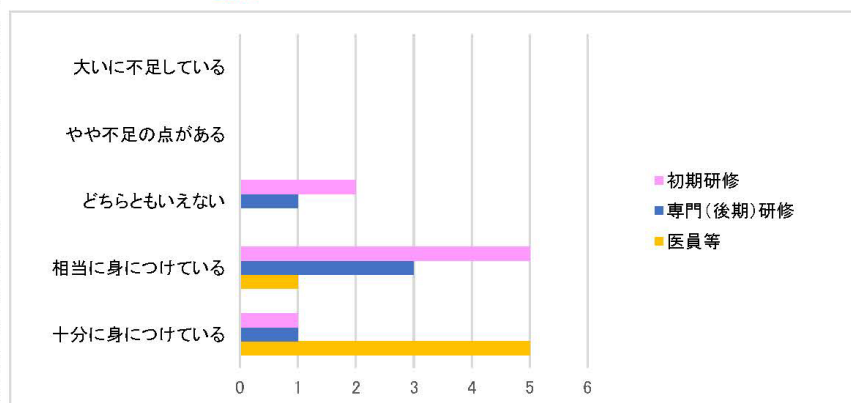
1. ヒューマンケアの基本に関する実践能力（コメントなし）
2. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力（コメントなし）
3. 特定の健康課題に対応する実践能力（コメントなし）
4. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力（コメントなし）
5. 専門職者として研鑽し続ける基本能力（コメントなし）
6. その他
 - ・自分たちはコロナ禍もあって、なかなか患者、家族と直接関わる機会が少なかった。
 - ・入職後に実習が記録のための実習となっていたように感じました。
 - ・就職に対しても支援していただき、今目標としていた病院、部署で働くことができおり感謝しています。

C. 就職先等からの意見聴取

県内医療機関に医学部卒業生の資質・能力等に関するアンケートを実施している。

佐賀大学医学部卒業生の資質・能力等に関するアンケート 《医学科卒業生に関するアンケート》

1. 診療等に必要な学力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか。



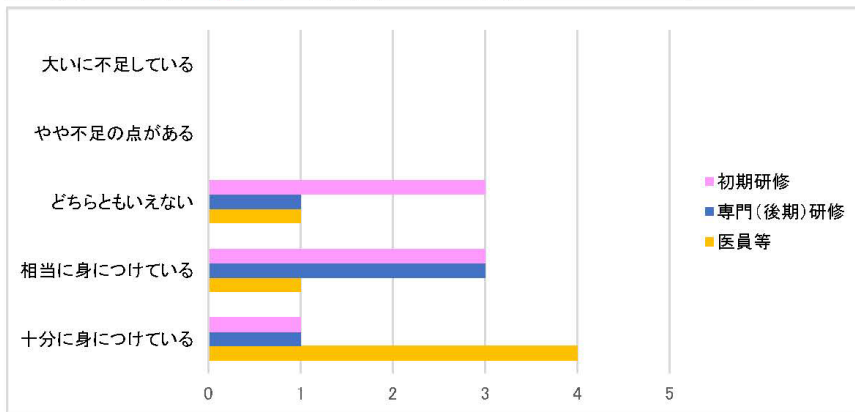
【優れている点】

初期研修	・コミュニケーション能力に優れている ・向上心、研究心に富む ・チーム医療に馴染んでいる ・細かく病歴を聞き、診療することができている ・満遍なく基本的知識があり、難しい文献なども研修医同士で教え合いながら読み進めている
専門（後期）研修	・研究心に富み、学会発表や論文作成をよく行っている ・チーム医療に馴染んでいる ・専門外の分野でも検査やプランニングし、適切に専門科へ引き継げている ・初期研修の頃より総合的な学力・判断力は上がっている印象を受ける
医員等	・後輩の面倒見が良い ・専門性は高い ・専門分野の知識は十分であり、当院での治療、高次医療機関への移送など適切に判断できる ・学力の不十分さは感じない

【改善点・不足している点】

- ・探求心が不足

2. 診療等に必要な技術を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



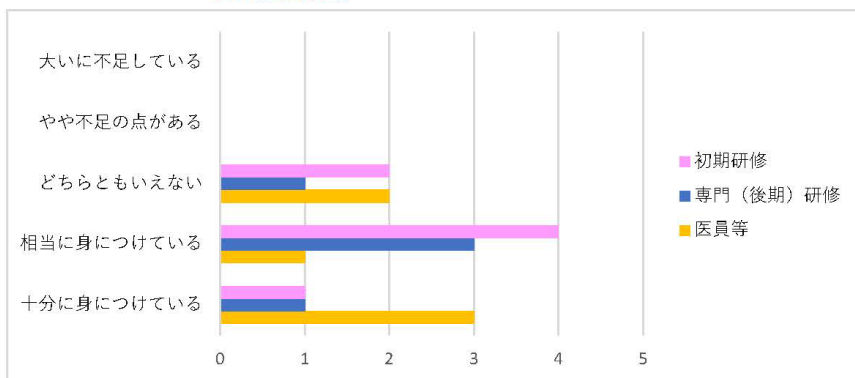
【優れている点】

初期研修	・対人的に問題ない ・経験がない手技も多いが、習得する意欲があり、すぐに上達している
専門（後期）研修	・対人的に問題ない
医員等	・対人的に問題ない ・技術面の不足は見られない

【改善点・不足している点】

- ・専門以外の分野に弱い

3. 診療等に必要な問題解決能力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



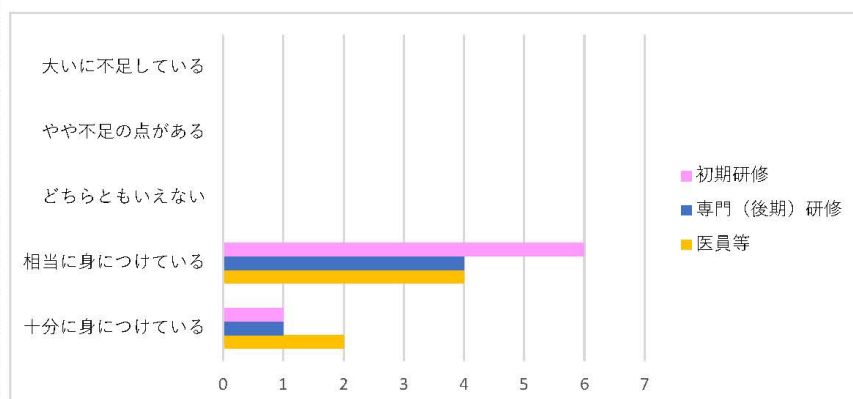
【優れている点】

初期研修	・研修医室で皆で話し合って（振り返り）正確なレベルに達している
専門（後期）研修	なし
医員等	・他科へのコンサルトができています

【改善点・不足している点】

- ・知識の広がりには乏しい
- ・当該科内で検討、解決する努力をせずにコンサルトに頼る医師がいる
- ・課題を明確にすればスムーズだが、何が課題かの想起は少し時間がかかる。

4. 診療等に必要な医療倫理・態度等、医療人としての資質を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



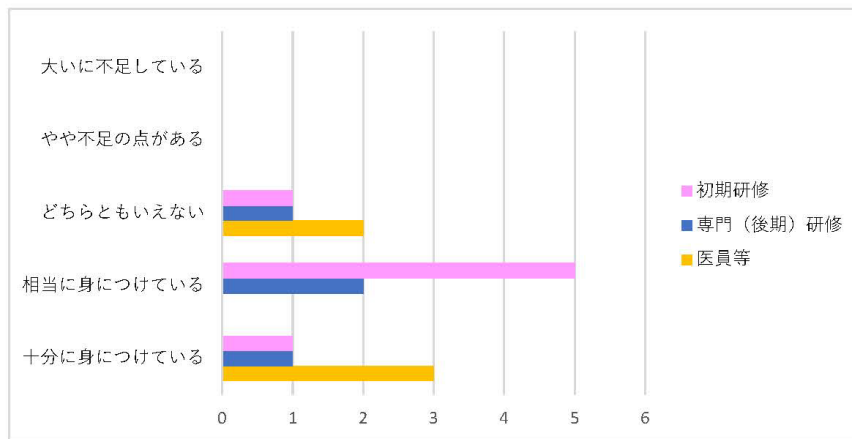
【優れている点】

初期研修	・優れた人格を持っており、これらの資質は十分に身に付けている ・問題ないと思います ・皆、礼儀正しく患者さんやスタッフにも丁寧な言葉で会話しており、好感が持てる ・あいさつ等のコミュニケーションはよくとれている
専門（後期）研修	・医療人としての資質は高い ・問題ないと思います ・家族への接し方など医療人としての対応をしっかりと取れている
医員等	・医療人としての資質は高い ・問題ないと思います ・病気は診られるが、全人的な判断ができない医師がいる。コミュニケーションが取れない医師がいる

【改善点・不足している点】

- ・特にありません。
- ・後期研修医で普段の家族との関わりは問題なく行えても、少し家族側から予期せぬ反応をされたとき対応できない方がいる。

5. チーム医療に必要な協調性・リーダーシップ等をどの程度身に付けていますか？



【優れている点】

初期研修	・個々で大きく異なる。が、他大学の研修医と比較すると協調性もリーダーシップもあるほうだと思う ・協調性は高いです ・個々の本人の性格が出るが、当院は6名という少人数なのでよくまとまっている ・他を攻撃するようなことはなく、思いやりをもって対応されている
専門（後期）研修	なし
医員等	・特に医長クラスの人のリーダーシップは素晴らしい ・自分の専門がある程度はつきりしてこられると、より困難な場面にも積極的に取り組んでいる

【改善点・不足している点】

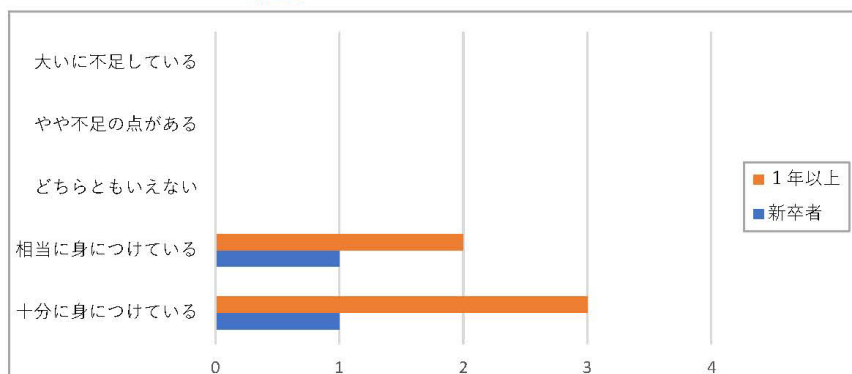
- ・チーム医療として意識する場面が少ない

6. その他（自由記載）

- ・若い人ほど挨拶ができない
- ・ICUのある病院で初期研修をしているかどうかで全身管理に差がある印象を受ける
- ・当院は基幹型4名、たすき掛け2名というアットホームな環境であり、個人個人の熱意、興味分野に応じて、又、劣った所を伸ばす教育を行っております。今年の研修医は皆非常に勉強熱心です。研修を終えて大学の医局に進級した後も自分で勉強し、成長していく様なスタンスを身に付けさせたいと思います。
- ・初期研修医ぐらいいまでは、出身大学を気にとめないこともないが専攻医以上について卒業大学を意識したことはなかった。初期研修先や専門プログラムに影響されることのようにもおもわれる。全国的にこのようなアンケートが実施されていると予想するが、結果がどういったことに役立てられているのかご教示いただけるとありがたい。

佐賀大学医学部卒業生の資質・能力等に関するアンケート
《看護学科卒業生に関するアンケート》

1. 療養支援等に必要な学力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



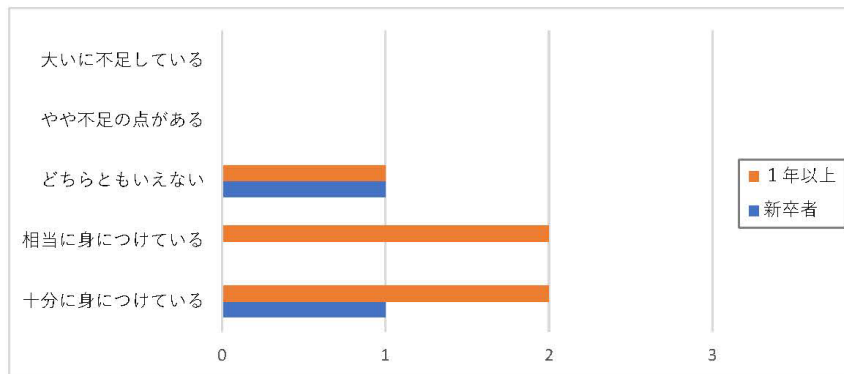
【優れている点】

新卒者	・文章力が長けている
1年以上	・産科・小児科領域への興味関心が高い ・先輩やペアとなっている看護師に必要時は自ら質問・確認しながら積極的に看護実践ができています。患者さんの問題を提示、周りに相談し、取り組んでいる。 ・平成 23 年卒業して保健師として入職したスタッフがあります。入職時より専門的な知識・学力を活かし、配属部署での業務も理解力がありました。現在も部署でのリーダーシップ、看護部委員会など積極的に活躍しています。 ・経験年数に応じて妊娠初期から介入が必要な場合は、自ら情報を収集し提供できている。

【改善点・不足している点】

- ・自己学習を続け、知識・技術の更なる向上に努める。

2. 療養支援等に必要な技術を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



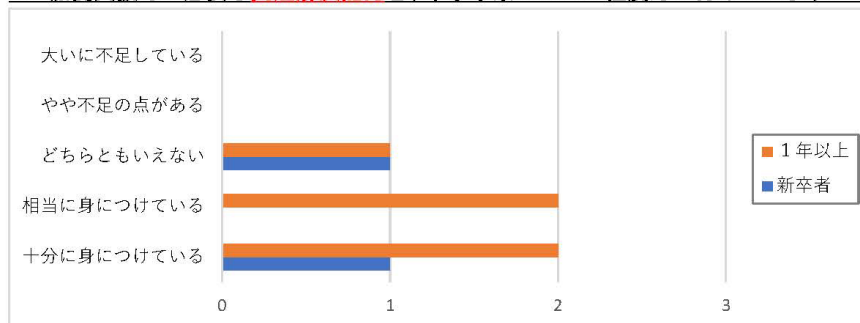
【優れている点】

新卒者	・ 現在、当院規定の技術チェックに沿って支援中。自身での振り返りができ、1つ1つ丁寧に身に付けていこうとする姿勢が見られる。
1年以上	・ ペアの看護師や指導者に確認しながら看護実践ができています。 ・ 自部署での自身の役割に応じた研修会や資格取得に積極的に習得する姿勢が見受けられます。 ・ 助産ケアにおいては、必要な知識・技術は習得し、自立できている。

【改善点・不足している点】

- ・ 自己学習を続け、必要な技術の習得に努める。患者さんへの関わり方、声のかけ方が不十分である。
- ・ 産婦人科以外の入院対応の場合、当館の看護手順や検査マニュアルを使用し、他の看護師より指導を受け実施している。

3. 療養支援等に必要な問題解決能力を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



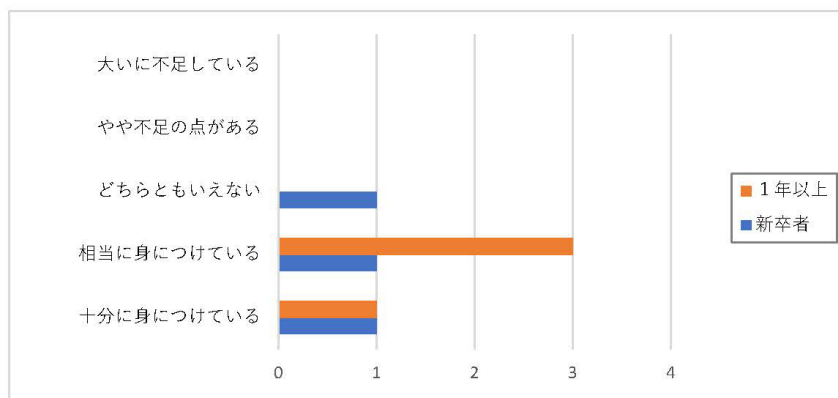
【優れている点】

新卒者	・ 支援の下、1つ1つ相談しながら実践できている。
1年以上	・ 自己学習や研修会に参加し、身に付けている。必要時は先輩看護師の意見を聞きながら対応している。 ・ 質問2で回答したように自己学習も行いますが、困難だと思うときには、上司や認定看護師等に相談できる能力を持っています。 ・ 受け持ち患者の看護問題を明らかにして、看護計画を立案し、看護ケアができています。

【改善点・不足している点】

- ・ 様々な状況を経験しながら、その経験を次に活かす努力をしていく。

4. 療養支援等に必要な医療倫理・態度等、医療人としての資質を、本学卒業生はどの程度身に付けていますか？



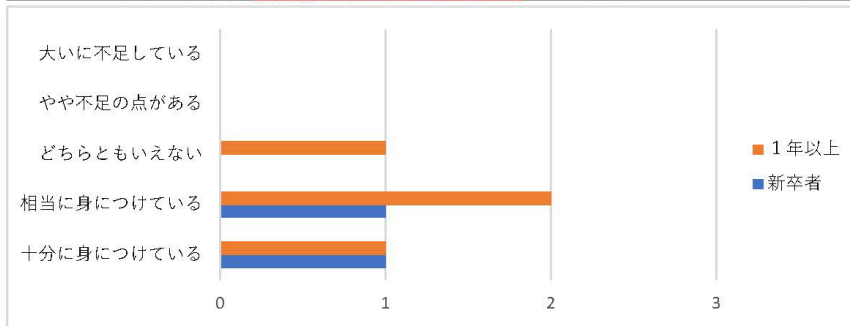
【優れている点】

新卒者	・患者さんの家族対応、スタッフ間のコミュニケーションがいつも丁寧である。
1年以上	・患者さんやスタッフへの態度、言葉遣いも丁寧である。倫理的視点から患者さんの苦痛軽減にも取り組んでいる。 ・患者、家族との対応、医師や多職種との対応を行う際も適切な言葉遣い、態度で行えています。 ・産科領域においては、安心して育児やケアが受けることができるように自ら考えて対応できている。

【改善点・不足している点】

- ・倫理的視点でどう考えているか伝わらない所もある。
- ・生命の誕生とは逆にターミナル期や認知症・せん妄などのリスク要因がある場合の専門的なケアにおいて苦手意識があるように感じる。

5. チーム医療に必要な協調性・リーダーシップ等をどの程度身に付けていますか？



【優れている点】

新卒者	・PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）体制を理解し、パートナーと共に看護実践をするよう努力している
1年以上	・先輩、後輩ともに良好なコミュニケーションが取れている ・先輩・後輩の特性を見極めながら現場でのリーダーシップが取れています。質問1～4で回答したようなことから、上司からも厚い信頼を受けています。 ・自分の意見を相手に伝えることができおり、また相手の意見に耳を傾け部署にとって何が良い方向かを考えることができています。

【改善点・不足している点】

- ・自身の考えを伝え、リーダーシップを身に付けていく。自らの発言が少ない。
- ・実施指導者としてのリーダーシップの発揮
- ・自分は経験が少ないため自身がいないなどの発言がある。

6. その他（自由記載）

- ・産科領域の就職者が多いためか、管理者や教育者などのキャリア志向が少ない
- ・スタッフとのコミュニケーションも図れて業務が行えている。2つの病棟で勤務しながら看護業務を行い、積極的に知識・技術を身に付けようとしている。また、毎日一生懸命に頑張る姿を見て先輩看護師に良い刺激を与えている。

Ⅳ 研究に関する状況と自己評価

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

1. 研究の実施体制・推進体制

医学部においては、研究を推進する特色ある教育研究センター等を設置している。（資料1）

資料1 研究を推進する教育研究センター等

名称	特色	設置部門等
医学部附属地域医療科学教育研究センター	高度に発展し分化した専門分野の連携を図り、住民本位の地域医療連携モデルの作成と実現、地域医療の包括的な発展に貢献する研究・人材育成を目的とする教育・研究施設として平成15年4月に設置し、令和6年度末現在では右記の4部門からなる。グローバルな人材育成も鑑み、国際社会で活躍できる医師・研究者の育成にも尽力している。	・医学教育開発部門 ・教理解析部門（教育IR室） ・国際健康科学部門 ・オミックス医療研究部門
医学部附属先端医学研究推進支援センター	医学部及び附属病院における研究推進、教育研究支援並びに学内外への情報発信を目的に平成19年4月に設置した。	・研究推進部門 ・研究支援部門
寄附講座	企業等との共同の下、専任教員を配置し、各分野における先端的な基礎的・臨床的研究を展開することを目的とし、平成16年10月から順次設置した。なお、20講座は、それぞれ当初の目的を達成し終了し、現在は右に示す4講座が稼働している。	・人工関節学 ・医工循環器学 ・胆膵先進医療学 ・不整脈精密医療学
共同研究講座れい	民間機関等から本学に受け入れる研究経費を活用して本学と民間機関等が共同して研究を実施することにより、教育研究の進展及び充実を図ることを目的とし、令和2年4月1日設置した。	・創薬科学
医学部附属再生医学研究センター	医学部の再生医学に関する研究を推進し、新しい医療技術開発を促進することで、医学教育及び医工学研究の人材育成の場を構築し、国内外の企業、大学及び医療機関等の連携拠点となることを目指し、地域の発展並びに医療技術の向上に貢献することを目的に平成31年4月に設置した。	
医学部附属看護学教育研究支援センター	看護職者の教育・研究・臨床実践・マネジメント能力を高めるための生涯継続教育を支援し、また、人事交流や国際交流を支援することにより、看護職者のキャリア向上を目指すとともに、地域の看護学の発展ひいては地域医療に貢献することを目的として平成26年4月に設置したもので、右記の3部門からなる。	・教育研究実践支援部門 ・人事交流支援部門 ・国際交流支援部門
医学部附属病院臨床研究センター	医学部及び医学部附属病院の研究者が関与する臨床研究（看護研究等すべての人を対象とする研究を含む。）、先進医療、企業主導型治験、医師主導型治験、製造販売後臨床試験及び製造販売後調査に関する業務を行い、信頼性と品質管理及び倫理性・科学性を確保することを目的として、平成27年5月に設置した。	・データサイエンス部門 ・臨床研究推進部門 ・監査部門 ・治験部門

2. 発表論文数

発表論文数は（資料2）のとおりであり、前年と比較して全体の件数は微減している。（前年比：著書（欧文・和文）100%、原著・総説（欧文）95%、原著・総説（和文）100.5%）。今後も継続的に研究支援・評価を計画実行していく。

資料2 発表論文数（延べ総数）

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
著書（欧文・和文）	109	161	125	172	112	112
原著・総説（欧文）	495	527	648	575	521	497
原著・総説（和文）	265	317	285	211	200	201
計	869	1005	1,058	958	833	809

※出典 佐賀大学医学部研究業績年報第39号

3. 学会発表数

学会発表数は、（資料3）のとおりであり、前年と比較して全体の件数は微減しているが、国際学会の発表件数は増加しており、国際的な研究活動の活性化が見られる。

資料3 学会発表数（延べ総件数）

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
国際学会	200	91	86	112	136	152
国内学会（全国規模）	1,085	704	868	1,107	1,216	1,171
国内学会（地方規模）	445	170	315	928	895	869
計	1,730	965	1,269	2,147	2,247	2,192

※出典 佐賀大学医学部研究業績年報第39号

4. 特許出願・保有件数

特許の出願及び保有件数は、（資料4）のとおりである。

資料4 特許出願・保有件数

（ ）は出願件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
国内特許	-	-	-	-	-	42 (6)
外国特許	-	-	-	-	-	29 (5)
計	-	-	-	-	-	71 (11)

※出典 社会連携課資料

※特許出願・保有件数は令和6年度より集計

5. 外部資金の獲得状況

(1) 科学研究費助成事業（科研費）

科学研究費助成事業の獲得状況は（資料 5）のとおりである。前年と比較して採択件数・金額ともに減少しているが、令和 6 年度から医学部独自の採択率向上に向けた支援を開始しており、今後はその効果が期待できる。

資料 5 科学研究費助成事業（科研費）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
採択件数	104	102	122	125	134	124
金額(千円)	206, 008	217, 728	209, 401	231, 578	241, 994	187, 972

※継続の件数・金額を含む
 ※交付額には間接経費を含む
 ※出典 佐賀大学ホームページ

(2) 厚生労働科学研究費補助金

厚生労働科学研究費補助金の獲得状況は（資料 6）のとおりである。前年と比較して、採択件数・金額ともに微増しており、安定した獲得状況を維持している。

資料 6 厚生労働科学研究費補助金

（ ）は本学が代表の値

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
採択件数	15 (1)	18 (0)	19 (1)	17 (0)	22 (1)	23 (1)
金額(千円)	54, 588 (39, 988)	25, 350 (0)	70, 074 (11, 024)	26, 130 (0)	22, 160 (9, 100)	24, 317 (7, 150)

※出典 研究推進課資料

(3) 共同研究

共同研究の実施状況は（資料 7）のとおりである。前年と比較して件数・金額ともに大幅に増加しており、産学官の連携が着実に進展していることがうかがえる。（前年比：件数 188%、金額 295%）

資料 7 共同研究

（ ）は共同研究先が県内企業

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件数	23 (-)	22 (-)	23 (-)	28 (-)	24 (-)	45 (2)
金額(千円)	51, 600 (-)	4, 243 (-)	51, 834 (-)	70, 379 (-)	23, 839 (-)	70, 379 (1, 100)

※出典 佐賀大学ホームページ

※出典 県内企業にかかる数値は令和 6 年度から集計

(4) 受託研究

受託研究の実施状況は（資料 8）のとおりである。前年と比較して件数・金額ともに減少しているが、政府の競争的研究費制度に該当する研究資金の獲得件数は増加しており、質の高い研究へのシフトが見られる。

資料 8 受託研究

（ ）は政府の競争的研究費制度に該当（再委託を除く）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件数	1, 277 (6)	973 (7)	1, 063 (7)	1, 003 (3)	1, 017 (5)	957 (10)
金額(千円)	202, 445 (66, 583)	210, 762 (105, 850)	200, 432 (83, 578)	117, 892 (24, 547)	189, 558 (36, 429)	165, 307 (47, 678)

※病理組織検査を含む

※出典 社会連携課資料、医学部経営管理課資料

(5) 研究助成金（公的機関・財団・民間企業等）

研究助成金の受け入れ状況は（資料 9）のとおり、前年と比較して件数・金額ともに減少している。研究助成金を含めた奨学寄附金の受け入れ状況は（資料 10）のとおりである。

資料 9 研究助成金（公的機関・財団・民間企業等）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件数	48	52	58	44	42	33
金額(千円)	72, 357	85, 407	39, 468	41, 900	59, 236	38, 841

※出典 医学部経営管理課資料

資料 10 奨学寄附金

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件数	687	589	562	590	498	460
金額(千円)	346, 123	333, 669	449, 981	411, 609	366, 441	316, 075

※研究助成金（公的機関・財団・民間企業等）を含む

※出典 佐賀大学ホームページ

(6) 寄附講座

佐賀県や民間企業からの申込みを受け、平成 16 年度以降に 24 の寄附講座が設置され、(資料 11) のとおり、現在は 4 講座が教育研究活動を展開している。前年と比較して講座数は変わらず、寄附講座設置に係る受入金額は減少しているものの、新規講座の設置により内容の充実が図られている。

資料 11 実施中の寄附講座一覧

単位：千円

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合計
人工関節学講座 (H17. 1. 1～R7. 12. 31)	24, 000	20, 000	20, 000	20, 000	20, 000	15, 000	119, 000
医工循環器学講座 (R4. 4. 1～R7. 3. 31)	－	－	－	20, 000	20, 000	20, 000	60, 000
胆膵先進医療学講座 (R5. 8. 1～R7. 7. 31)	－	－	－	－	9, 000	9, 000	18, 000
不整脈精密医療学講座 (R6. 6. 1～R8. 5. 31)	－	－	－	－	－	13, 000	13, 000

※出典 医学部総務課資料

資料 12 寄附講座設置に係る経費の受入状況

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
講座件数	6	7	7	5	4	4
金額(千円)	127, 000	122, 500	128, 500	108, 500	72, 000	57, 000

※出典 医学部総務課資料

(7) 共同研究講座

民間機関等から受け入れる研究経費を活用して行う、本学と民間機関等の共同研究により、教育研究の進展及び充実を図ることを目的とし、令和 2 年 4 月より開始した。(資料 13) のとおり、現在まで 1 講座を設置しているが、毎年同額の研究経費を受けて入れており、安定した運営が継続されている。

資料 13 共同研究講座の設置状況

創薬科学共同研究講座（令和 2 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日）

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
金額(千円)	－	42, 928	42, 928	42, 928	42, 928	42, 928

※出典 医学部総務課資料

(8) 治験件数

民間製薬会社等からの治験は、(資料 14) のとおりである。前年と比較して件数は同じであるが金額が増加しており、治験活動の質的向上が見られる。

資料 14 治験件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	78	48	45	67	66	66
金額(千円)	64,742	45,987	60,393	45,633	53,828	63,876

※出典 経営管理課資料

6. 研究に対する支援

(1) 研究推進支援事業(研究活動活性化)

研究推進支援事業(研究活動活性化)として、間接経費が措置される競争的資金等において、当該年度の9月末日までの期間において、研究者毎に集計した間接経費額が以下の基準を満たす場合に、部局に配分される間接経費額の一部を研究費として追加配分する支援を実施している(資料 15)。

間接経費率 間接経費基準額	直接経費の30%	直接経費の30%未満
300万円以上～	50%相当(全体の25%相当)	20%相当(全体の10%相当)
100万円以上～300万円未満	50%相当(全体の25%相当)	10%相当(全体の5%相当)
30万円以上～100万円未満	50%相当(全体の25%相当)	×対象外
30万円未満	×対象外	×対象外

資料 15 研究推進支援事業(研究活動活性化)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件数	21	73	62	69	77	77
金額(千円)	8,921	14,584	14,323	13,063	19,634	16,217

※出典 医学部総務委員会資料

(2) 表彰

医学部長賞(研究部門)

医学部の発展に資することを目的とし、優れた業績等のあったと認められる個人に対して授与している。(資料 16)

資料 16 医学部長賞(研究部門)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受賞者数	2	2	2	3	1	2

※出典 教授会資料

大学院医学系研究科優秀論文賞

優れた研究論文を発表した大学院生に、今後の更なる研究の発展を期待し、毎年度、医学系研究科優秀論文賞を授与している（資料 17）。

資料 17 大学院医学系研究科優秀論文賞

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
優秀論文賞	1	1	1	1	1	該当なし
優秀論文奨励賞	4	3	1	2	2	1

※修士課程は令和5年度で終了したため、博士課程に係る数値のみ掲載

※出典 医学系研究科委員会資料

医学部若手研究者優秀論文賞

医学部における研究水準の向上に著しい貢献をした研究論文の中から、若手研究者が発表した優秀な論文を選考し、優秀論文賞及び優秀論文奨励賞を授与している（資料 18）。

資料 18 医学部若手研究者優秀論文賞

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
優秀論文賞	1	1	1	1	1	1
優秀論文奨励賞	2	2	3	2	2	2

※出典 医学系会議資料

（３）セミナー・その他支援等

研究推進の支援として、（資料 19）のとおり実施している。

資料 19 セミナー・その他支援等

令和6年度実績

名 称	目 的	回数	延べ 参加人数
屋根瓦式相互査読プログラム (科研費申請サポートプログラム)	科研費の採択率向上と外部資金の更なる獲得を目指し、各段階にある研究者の相互査読を経て、更に上級研究者の厳格な査読を受けることにより、より効果的な申請書の作成技術を学ぶことを目的とする。	-	42
申請書作成能力支援セミナー (科研費申請サポートプログラム)	魅力的かつ効率的な文書作成に必要な PC スキルを学ぶことを目的とする。	10	166
申請書外部添削 (科研費申請サポートプログラム)	科研費の採択率向上と外部資金の更なる獲得を目指し、申請書類のブラッシュアップを目的とする。	-	13
英文論文作成セミナー	英語での論文発表や学会発表は研究者として必須であり、これに必要な英文論文作成のスキルアップを目的とする。	8	56
医学部プロフェッショナルレクチャー	医学部内外の連携を促進するために、専門性の高いセミナーを他学部にも開放し、相互理解と新たな研究連携の機会の創出を目的とする。	4	200
医学部リトリート	基礎と臨床研究者間の相互対話の機会を設け、共同研究を促進することにより、本学の研究活動の活性化を目的とする。	1	50

7. その他の取組

佐賀大学 SDGs プロジェクト研究所は、(資料 20) のとおり稼働している。社会的課題への対応として、地域医療や災害対策に関する研究が進められており、今後の成果が期待されている。

資料 20 佐賀大学 SDGs プロジェクト研究所

プロジェクト名	プロジェクト長	設置期間
医療教育デジタルトランスフォーメーション開発プロジェクト	地域医療科学教育研究センター 小田教授	令和 3 年 10 月～令和 6 年 9 月
災害関連死をゼロにする地域連携プロジェクト	高度救命救急センター 阪本教授	令和 5 年 10 月～令和 8 年 9 月

参考：佐賀大学 SDGs プロジェクト研究所 (http://www.saga-u.ac.jp/kokusai/supla_gakugai.html)

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

研究成果の発信については、国内外の学術誌への論文投稿、学会での口頭発表およびポスター発表が活発に行われている。著書、原著論文、総説論文の発表件数は前年と比較してわずかに減少したが、国際学会での発表件数は増加しており、国際的な研究活動のさらなる活性化が見られる。

また、知的財産の創出にも積極的に取り組んでおり、令和6年度には国内特許を6件、外国特許を5件出願した。特に、アサヒシューズ株式会社と共同開発した靴底技術（特許第7062234号）は、令和6年度地方発明表彰において福岡県発明協会会長賞を受賞するなど、社会的評価も得ている。

さらに、ミッション実現戦略分プロジェクトに係る実施状況は以下のとおりである。

○オール佐賀で挑むメタボ癌撲滅プロジェクト

本プロジェクトは、佐賀県内の肝がん・前立腺がん・膵がんの予防・早期発見・治療・再発予防を目指す地域連携プロジェクトである。

令和6年度には、公開講座やイベント開催に加え、テレビやWEBで配信するためのCMを制作し、地域住民や若年層への啓発活動を積極的に展開した。

○アトピー性皮膚炎の痒みに対するメカニズムの解明と創薬研究

本プロジェクトは、アトピー性皮膚炎に伴う強い痒みの原因を解明し、それを抑制する新たな治療薬の開発を目指す研究プロジェクトである。企業との共同研究や特許出願も活発に行われており、研究は着実に進展している。

令和6年度からは、新たにアレルギー学分野を新設し、既存の分子医科学分野と共にアレルギー疾患を対象として、研究を進めている。

また、令和5年に実施したクラウドファンディングでは、目標額の2倍となる支援を獲得し、社会からの高い関心がうかがえた。さらに、令和6年11月26日にREADYFOR株式会社が開催した、研究資金調達に関するオンラインセミナーには、出原特任教授が登壇した。出原特任教授の取り組みは、医学研究における資金調達の新たなモデルとして注目されており、今後の成果が期待されている。

V 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

1. 教育の国際交流状況

佐賀大学医学部は、ハワイ大学と輔仁カトリック大学の2校と国際交流協定を締結している。

ハワイ大学（医学部医学科生）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入学生数	4	0	0	0	4	4
派遣学生数	4	0	0	0	8	5

輔仁カトリック大学（医学部医学科生）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入学生数	4	0	0	0	3	4
派遣学生数	4	0	0	0	1	4

※令和2年度～令和4年度はCOVID-19感染拡大のため中止

2. 社会連携・貢献に関する状況

（1）教育

医学部学生の臨床医学教育実習の実施等に関し円滑な実施に資するため、佐賀大学医学部臨床医学教育実習協力病院等運営協議会を設置し、佐賀県内医療機関との協議を行っている。

令和6年度佐賀大学医学部臨床医学教育実習協力病院等運営協議会

日時：令和6年9月19日（木）18：00～18：50

場所：グランデはがくれ 3F「天山」

（2）研究

【TSUNAGI プロジェクト】

佐賀県が県内大学と連携して実施する「TSUNAGI プロジェクト」に5件採択された（新規1件、継続4件）。この事業は、県内の高等教育機関の技術や知見を活用し、地域課題の解決や産業・学術の発展を通じて、佐賀の未来を創造することを目的としている。前年度と比較して1件増加しており、産学官連携を通じた地域社会への研究成果の還元と、地域の課題解決への貢献が促進されている。

（採択課題）

- ・一人ひとりの価値観に寄り添った終末期医療・介護を実現するためのカードゲームを用いた意思決定支援ツールの開発

- ・女子中学生のアスリート支援プロジェクト研究
- ・干物を利用した次世代型バイオ製造システムの開発
- ・佐賀から始まる末梢神経疾患の診療支援体制構築
- ・アトピー性皮膚炎における痒みに対する創薬推進プロジェクト

【地域みらい創生プロジェクト】

本学が独自に展開する「地域みらい創生プロジェクト」に2件採択された（新規2件）。この事業は、県内自治体との協定に基づいた、地域の未来を共に創造することを目的とした研究・実践活動である。地域のニーズに即したプロジェクト設計となっており、地域医療の質向上に貢献する取組が進められている。

（採択課題）

- ・佐賀から始まる末梢神経疾患の診療支援体制構
- ・細胞製人工半月板の非臨床・臨床応用に向けた開発

VI－I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

1. 医学部・医学系研究科の第4期中期目標・中期計画及び進捗状況

中期目標

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

(10) 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。②③ 1 安全管理に深い理解のある人材の育成を図るとともに、安全管理体制の整備を実現することで、安全と環境に配慮した大学運営を進める。

中期計画

(10-1) 財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指し、多様な研究資源を活用した外部資金の獲得や他の教育機関等との連携・協働による財源確保を進め、保有する施設及び設備の有効活用を行う。

令和6年度の取り組み状況

(10-1)

医学部独自の取組として、以下の取組を行った。

・屋根瓦式相互査読プログラム（科研費申請書サポートプログラム）

研究初学者の申請力向上を目的に、学部横断で申請者と査読者を募り、科研費採択実績に応じて初心者・中級者・上級者の3段階に分けて査読・校正を行うことで、研究コンセプトと文書作成スキルの同時強化を図っている。（参加人数：42名）

・申請書作成能力支援セミナー（科研費申請サポートプログラム）

魅力的かつ効率的な文書作成に必要なPCスキルを習得するための実践的な学習の機会を提供した。（開催回数：10回、延べ参加人数：166名）

・英文論文作成セミナー

英語論文掲載数の少なさを受け、若手研究者の英語論文作成力向上を目的に、専門家によるセミナーを実施している。参加者が論文を分析・議論することで、構成や研究の妥当性を多角的に学ぶ機会を提供している。（令和6年9月24日～令和7年1月7日、計8回）

・医学部プロフェッショナルレクチャー

医学部内外の連携を促進するために、専門性の高いセミナーを他学部にも開放し、相互理解と新たな研究連携の機会を創出している。（開催回数：4回、延べ参加人数200名）

・医学部リトリートの開催

教員や学生、臨床や基礎などの立場や分野の垣根を無くし、参加者全員で科学的思考・議論を行う場を提供した。

開催日：令和6年8月24日(土)～25日(日)

会場：メルキュール佐賀唐津リゾート（唐津市東唐津 4-9-20）

参加人数：50名

中期目標

Ⅳ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

- (11) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。④

中期計画

- (11-2) 法人経営に対する理解・支持を獲得するために、法人の経営に関する情報等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献、国際交流等の情報を、各ステークホルダーに応じた手段を用いて効果的かつ積極的に発信する。また、各ステークホルダーとの意見交換の場を設け、それらを通じて聴取した意見による改善事例を公表する。

令和6年度の実施状況

(11-2)

○ステークホルダーへの情報発信

- ・医学部における情報発信は、従来のホームページによる情報発信に加え、佐賀大学医学部公式 SNS (X と Instagram) の開設及び運用開始により、効果的かつ積極的な情報発信を行った。加えて、情報収集用のチラシを作成し学部内に周知し、情報収集に努めた。
- ・附属病院における情報発信は、附属病院ホームページの「病院からのお知らせ」及び「佐賀大学病院ニュース」において、当院の取組を随時発信した。

○意見交換等によるステークホルダーからの意見聴取と改善

- ・医学部広報部会のオブザーバーとして医学部学生が参加し、意見を聞く体制を整備した。11月に医学部ホームページについての意見を聴取したが、特段の意見はなかった。今後も、必要に応じて意見を聴取していく。
- ・医学部の自己点検評価に対する学外者検証として、12月9日に外部評価を実施した。外部評価者から聴取した意見にかかる改善（可能なもの）は、随時対応を進めている。

- ・令和6年9月19日に地域の連携病院の理事長・病院長を召集した「佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議」を行った。その後、出席者アンケートを行い、当会議のあり方や当院への要望について意見を聴取した。（集計期間：9月27日～10月11日、回答数：52（院外出席者70名に依頼）出席者アンケートの中で、当院の予約システム（C@RNA Connect）について、患者氏名を入力すると仮予約ができるようにしてほしいという要望があり、システムの修正を行った。

中期目標

- （12）AI・RPA（Robotic Process Automation）をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。②⑤

中期計画

- （12-1）情報の機密性、完全性、可用性が担保されたデジタル・キャンパスを目指し、通信環境などの情報基盤を整備、強化するとともに情報セキュリティのための組織的対策及びeラーニング教育等を実施する。
- （12-2）業務全般の継続性が確保されたデジタル・キャンパスの実現を目指し、AI やRPAなどのデジタル技術を活用して、運営事務の効率化を推進する。

令和6年度の取り組み状況

（12-1）

本学教職員は毎年度1回以上情報セキュリティ教育に関する教育の受講が義務付けられている。このため医学部に在籍する教職員に対し、オンライン学習の受講を呼びかけている。

eラーニング講習の受講状況を把握し、受講促進に取り組んだ結果、11月30日現在の受講率は100%を達成した。

（12-2）

8件の業務に対してRPAの導入を検討した。4件の業務についてはプログラムの構築を完了し、試行運用を行いながら成果の検証を進めており、RPA化による業務削減の効果が期待される。

2件の業務についてはプログラムの構築を終えており、令和7年4月から運用を開始し、今後の本格運用に向けて調整を行っている。

一方、残る2件のうち1件は、RPA化による業務削減の効果が見込めないとの判断に至り、RPA化を見送った。もう1件については、人による判断が多く求められる業務であり、RPAによる対応が困難であると判断し、導入を中止した。

今後も、業務の特性や効果を踏まえながら、適切な業務に対してRPAの導入を進めていく予定である。

○構築完了・成果検証中の事業

- ・看護部門に関する看護関連情報のデータ収集・作成業務（医学部附属病院看護部）
- ・医師の勤怠管理システムにおける超過勤務時間の通知業務（医学部総務課）
- ・発注データ送付業務（医学部経営管理課）
- ・資料作成業務（医学部経営管理課）

○構築完了・令和7年度運用開始の事業

- ・兼業依頼の電子化（医学部総務課）
- ・財務会計システムの予算入力業務、予算配分業務、予算振替業務から予算配分通知の作成（財務課及び医学部経営管理課）

○導入見送り

- ・人件費管理（医学部総務課）

○導入中止

- ・eAPRIN プログラムへの受講対象者登録作業（医学部総務課）

2. 施設の状況

1979年に竣工した臨床講堂は老朽化が進んでいる。より安全安心な教育環境を確保する施設への再生を目指し、令和5年度に国立大学法人等施設整備事業に申請し、文部科学省の評価として最も高いS評価の結果を得たが、最終的には予算措置は見送られた。

令和6年度においても、国立大学法人等施設整備事業に申請し、文部科学省の評価として最も高いS評価の結果を受け予算措置が決定した。令和7年度から臨床講堂の改修工事を開始し、より安全安心な教育環境の提供を目指す。

3. その他部局の重要な取組

自律持続型高度学術研究・臨床教育拠点の構築 ―屋根瓦式研究教育の早期導入による循環型人材育成― の実施

令和6年8月に文部科学省高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）のタイプB 特色臨床研究基盤人材養成拠点に採択された。

本事業の目的は、「医師の働き方改革を推進するとともに、医学生や医学系大学院生に対して、大学病院における効果的な臨床実習や研究活動への参加機会を確保する。また、教育研究支援者の活用によって研究体制を強化し、臨床研究を促進することで、臨床教育・研究に関する高度な知識・技能を備えた優れた医師を育成し、日本の医学・医療の発展および研究力の向上に貢献する。」とされている。

医学域において、①先端的医学研究を基盤としながら、本学部独自の②Student Researcher (SR) システムおよび③Student as Teachers (SAT) 教育システムを有機的に融合させた。本

システムにより、学部学生から大学院生に至るまで一貫した研究教育体制を構築するとともに、医療の場において学生が指導者としても活動する機会を設けることで、学修の深化を図った。

これにより、科学者としての視点と教育指導者としての視点を兼ね備えた医学生、看護学生、医師、さらにはその他の医療従事者の養成を可能とする、佐賀大学独自の包括的教育システムが確立された。この学術研究と臨床教育の循環型人材育成を通じて、自立的かつ持続的な地域拠点の構築を目指している。

VI－II 明らかになった課題等（本学職員以外の者による意見を含む）に対する改善の状況又は改善のための方策

改善すべき点等一覧

	改善・向上が必要と確認された事項		対応計画・改善状況	計画の 進捗状況
	年	内容		
教育	R4	使命及び基本理念に記載されている「地域医療の向上」、「地域包括医療の向上」について、学生が目標達成するための臨床実習カリキュラムを作成すべきである。	【令和5年7月】 令和5年度入学生より、臨床実習開始時期を4年次1月に前倒しし、十分な臨床実習開始期間を確保するとともに、地域医療教育の期間・内容の拡充を重点的に盛り込むものとした。 令和5年度入学生が臨床実習を開始する令和8年度までに、臨床実習における教育・評価の方略を定めるべく、カリキュラム委員会、PhaseⅣ検討部会で検討を重ねる。また、臨床実習全体を通じた教育・評価の目標や方略の共有を図る。 【令和6年7月】 PhaseⅢ・Ⅳ合同検討部会において、令和5年度入学生が3年次となる令和7年度に向け、新カリキュラム（日程、ユニット構成、教育方略等）を今年度中に策定する予定。また、その新カリキュラムを策定次第、臨床実習カリキュラムを、令和5年度入学生が4年次となる令和8年度までに策定する。 【令和7年7月】 令和9年度から開始予定の臨床実習新カリキュラムでは、地域医療実習の期間を合計8週間に拡充することを決定した。拡充するに伴い、協力施設数を増加する必要がある、新たに13施設に協力いただけることになり、地域医療実習協力施設は合計30施設となる。また、協力施設と協議し、地域医療実習における到達目標の設定を行った。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()
	R4	入学定員充足率（R2～R5年度平均）が認証評価基準を下回っている。（項目5-3-1） 【実績：平均54%（R2:20%、R3:76%、R4:56%、R5:64%）】	【令和5年7月】 定員数の見直しについて検討する。 【令和6年7月】 定員を充足させる取り組みとして、次の4つを実施している。①佐賀大学で医学部学生のうちから、基礎研究に興味のある学生を各研究室で受け入	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

			れる取り組み、②医学系研究科博士課程と医学部医学科の教育連携を図るため、入学前に授業科目を受講する科目等履修生の取り組み、③佐賀県医療センター好生館や佐賀中部病院など、臨床実習協力病院を訪問し、社会人入学者数を増加させる取り組みを行っている。併せて医学部教授会においても、キャリア形成の一環として、④各診療科でも学位取得を促すよう働きかけを行っている。 【令和7年7月】 前年度の取り組みを継続し、入学者数が増加している。令和7年10月入学者数によっては、100%の定員充足率を見込んでいる。	
	R6	高校卒業生の絶対数が確実に減少していくなかで現在入学している学生のレベルの低下がないかを評価するシステムが必要と考える。	【令和7年7月】 医学科の推薦入試においては、合格判定基準を設けているため、一定レベルは保たれている。看護科の入試には基準はないが、看護師国家試験において例年100%の合格者数であり、レベルの低下は認められない。	☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☒ その他 (必要なし)
研究	R6			☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()
国際交流・社会貢献	R6			☐ 検討中 ☐ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()

組織運営	R1	医学科の専任教員数が設置基準を下回っている。教育の時間数・内容（業務量）の経時的な増加に対応出来ていないのではないかと考えられ、教育の質の低下、教員の研究業績の低下やQOLの低下が懸念される。人件費予算が厳しいことは承知しているが、何らかの対応が必要ではないか。	【令和2年12月】 専任教員の配置（欠員の補充）については、法人本部に要望を行っているところであるが、人件費、他学部とのバランス等を理由に受け入れられていない状況である。令和2年5月1日現在では、助手を除く医学部の教員数（承継内）は136人となっており、設置基準を下回る状態が続いている。法人本部に医学部における現状を認識していただく必要がある。 【令和3年12月末】 状況は変化していない。法人本部に医学部における現状を認識していただく必要がある。現在、学長裁量ポストを優先的に医学部へ調整してもらうなどの成果がでている。 【令和4年10月】 令和4年10月1日に「大学設置基準等の一部を改正する省令」が施行された。現状を把握する必要がある。 【令和5年7月】 設置基準のため、附属病院から医学科へ13名配置換して満たしている状況は変わらない。今後も法人本部に医学部における現状を認識していただく必要がある。 【令和6年7月】 令和4年度の大学設置基準等の一部改正に伴い、基幹教員の整理作業を進めているため、基準は満たす見込である。 【令和7年7月】 令和4年度の大学設置基準等の一部改正に従い、令和7年度から全学的に基幹教員制度を導入した。令和7年5月1日現在で、設置基準で示されている基幹教員数を満たしていることを確認した。	☐ 検討中 ☐ 対応中 ☒ 対応済 ☐ その他 ()
------	----	--	---	--

組織運営	R2	教員の年齢、性別構成について、ダイバーシティ推進委員会を設置して是正の努力はなされている。しかし、女性教員の割合は前年度と変わらず 27%である。女性助教の割合が 32%、准教授 28%、講師が 20%と講師の割合が低いことは、講師の年代の女性教員に対してより支援が必要であることを示しているのではないかと思う。	【令和 3 年 12 月】 令和 2 年 4 月から、「女性教員任用における公募の実施に関する申合せ」が制定され、「本公募では、「男女共同参画社会基本法」の主旨に則り、業績評価等の審査結果 について同等と認められた場合には、女性を優先的に採用します。」の文言を追加し、公募を行っている。令和 3 年度においては、社会医学講座（環境医学分野）准教授の教員選考で、女性限定公募を行った。引き続き、改善に努めていく。 【令和 4 年 10 月】 引き続き、改善に努めているが、女性教員の割合は、大きく変化していない。 【令和 5 年 7 月】 引き続き、改善に努めているが、女性教員の割合は増えていない。 【令和 6 年 7 月】 クロスアポイントメント制度を利用した女性研究者受入に係る支援が開始され、令和 6 年度はこの支援制度を利用して 3 名の女性教員を受け入れている。今後も積極的な受入に取り組んでいく。 【令和 7 年 7 月】 クロスアポイントメント制度を利用した女性研究者受入支援制度により、昨年度から引き続き 3 名の女性教員を受け入れている。今後も積極的な受入に取り組んでいく。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()
	R6	医学部および医学部附属病院のウェブサイトがリニューアルされてはいるが、一部、古い情報やアクセスできないページがあり、全体的な整備が必要ではないか。	【令和 7 年 7 月】 令和 7 年 4 月にメディカル広報室を設置し、医学部及び医学部附属病院のウェブサイトの管理を一元化した。今後、全体的な整備を進めていく。	☐ 検討中 ☒ 対応中 ☐ 対応済 ☐ その他 ()
施設	R6	自己点検・評価書に医学部施設の老朽化に関する記載が必要ではないか？	【令和 7 年 7 月】 自己点検・評価書の様式を見直し、令和 6 年度から施設に関する事項の記載を追加した。	☐ 検討中 ☐ 対応中 ☒ 対応済 ☐ その他 ()